NEWS23 週刊報告　　ダイジェスト版

対象番組：NEWS23(TBS)
対象期間：11/2～11/6

・11/2(月)
　アメリカ大統領選挙、アパレル業界に広がる「サスティナブル」、日本学術会議、大阪都構想、千葉県知事選挙などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、大阪都構想については従来の報道姿勢も含めて非常に問題のあるものでした。なお、大阪都構想については検証者の所感を記しました。

・11/3(火)
　アメリカ大統領選挙、苦境の文化芸術、核のゴミ、香港で公共放送ディレクターが逮捕などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、核のゴミについては他の放送日との合わせての判断が必要と考えられるものでした。なお、苦境の文化芸術については検証者の所感を記しました。

・11/4(水)
　アメリカ大統領選挙、日本学術会議、アメリカが台湾に無人機 4 期を売却、楽天が携帯乗り換えの手数料を 0 円になどについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、日本学術会議については他の放送日との合わせての判断が必要と考えられるものでした。

・11/5(木)
　アメリカ大統領選挙、年末年始の分散休暇、コロナと五輪、学術会議をめぐる内閣府の記録、核兵器禁止条約、中央道またぐ橋で不良工事が発覚、学術会議をめぐる法解釈などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、学術会議をめぐる内閣府の記録については他の放送日との合わせての判断が必要と考えられるものでした。なお、学術会議をめぐる内閣府の記録および中央道をまたぐ橋で不良工事が発覚については検証者の所感を記しました。

・11/6(金)
　オープニング、アメリカ大統領選挙、日本学術会議などについて報じられました。これら例示したトピックについて放送法第四条の見地から検証を行いましたところ、日本学術会議については他の放送日との合わせての判断が必要と考えられるものでした。なお、日本学術会議については検証者の所感を記しました。

※検証の詳細は次ページ以降の「詳細版」に掲載されている各放送日の報告書をご覧ください

放送法遵守を求める視聴者の会

NEWS23 週刊報告　詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2020 年 11 月 2 日

出演者：星浩、小川彩佳、村瀬健介、山本恵里伽、石井大裕

検証テーマ：アメリカ大統領選挙、アパレル業界に広がる「サスティナブル」
日本学術会議、大阪都構想、千葉県知事選挙

報道トピック一覧

・元女子大生を死体遺棄容疑で逮捕
・アメリカ大統領選挙
・アパレル業界に広がる「サスティナブル」
・日本学術会議
・大阪都構想
・ハンドボール元日本代表の宮崎大輔選手が暴行の疑いで逮捕
・駅でワイヤレスイヤホンの落とし物相次ぐ
・北海道での新型コロナの一日の感染者が過去最多に
・成田空港に PCR センター
・一方通行の道でのバック走行による後ろの車への威嚇で大砲
・スポーツ報道
・千葉県知事選挙
・レナウンが年内にも破産手続きへ
・天気予報

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

・アメリカ大統領選挙：結論→特に問題なし

小川キャスターの「まずはこちらをご覧ください、アメリカ大統領選挙の投票日まで丸一日を切りましたワシントン現在の様子です、こちらのお店、一回部分に木の板がですね、打ち付けられている様子が伺えるんですが、これは投票日前後の混乱を想定したものだということなんですね、支持者たちの妨害活動などが起きるなど不穏な空気が漂っています、今回の大統領選ですが、トランプ、バイデン、両氏は揃って激戦州入しラストスパートです。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられた。

ナレ「手袋をして傘をさし、空港に降り立ったトランプ大統領、選挙戦、最後の日曜日は雪が舞う中西部ミシガン州からスタートしました、この日、ホワイトハウスを出発したトランプ氏はミシガン、アイオワ、ノースカロライナ、ジョージア、そしてフロリダと 74 歳にして一日におよそ 5000 キロ、5 つの選挙区を回るハードスケジュール。フロリダ州での演説が終わったのは日付が変わった午前 1 時前でした。」

トランプ大統領「ジョー・バイデンは腐敗した政治家だ、中国に買収されている。2016 年にフロリダはこの腐敗した政治体制をやめさせるため、政治家ではない人物を大統領に選んだのちに『アメリカを第一に』した人物を。」

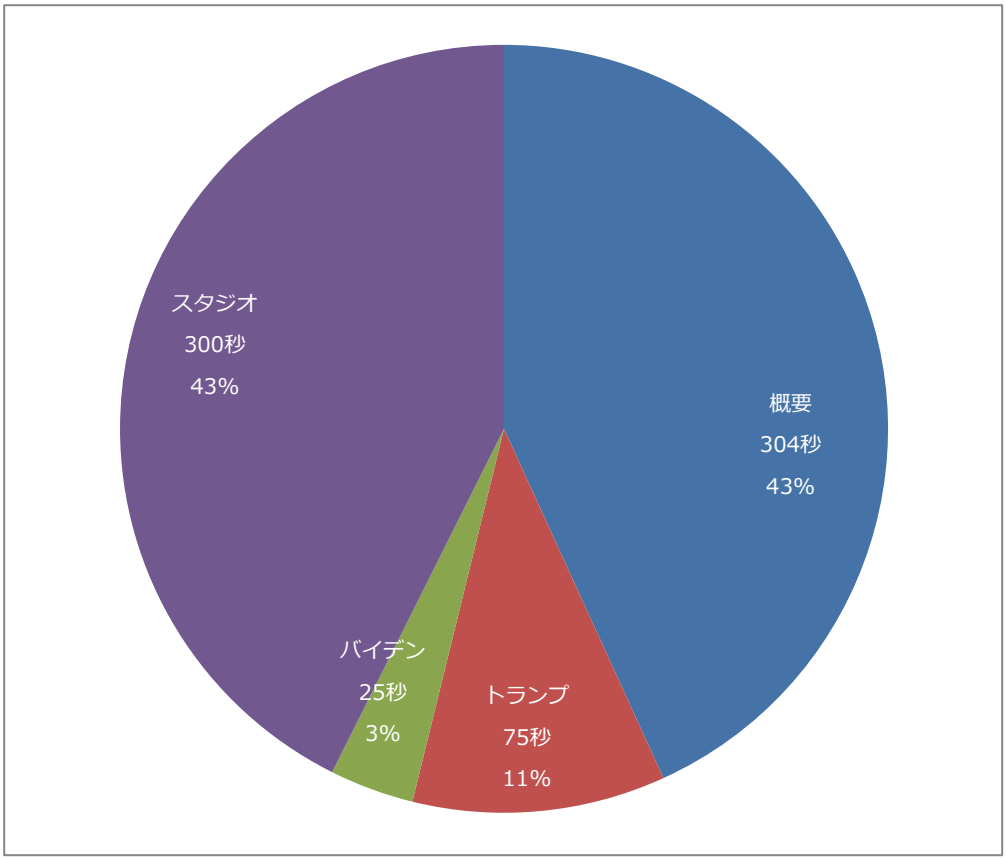
ナレ「一方、バイデン氏は勝敗の行方を左右するとされる東部ペンシルベニア州の 2 つの会場で演説。支持固めを図りました。」

バイデン「現大統領のもとで見てきた怒り、憎悪、分断をあと 4 年も容認することはできない。」
ナレ「両候補の激しい戦いがギリギリまで続く中、投票日を前に不穏な動きが全米各地に広がっています。
"黒人が人口の三割以上を占める南部ジョージア州。」
バイデン氏支持者 A「ジョージア州は民主党が奪還します。」
ナレ「1992 年以来共和党が勝ち続けている共和党の牙城ですが、今回トランプ氏は苦戦を強いられています。差別撤廃への機運が高まる中、これまで以上に鍵を握るのが民主党の支持者が多い、黒人の投票率です。ところが。」
宮本晴代（報告）「平日のお昼時なんですが期日前投票にはこれだけの方が並んでいます。現在、最後尾で 2 時間以上街だということです。」
ナレ「これは共和党の州知事が投票所を 300 以上も減らしたためでその大半が黒人が多い地域なのです。」
ジョージア州の有権者 B「投票妨害です、国民の声を信に反映させたいなら、極力多くの人に投票させるべきです。」"
"ナレ「妨害はこれだけにとどまりません、ニューヨークでは 1 日、トランプ大統領に抗議する人たちがデモを行い警察と衝突する事態に、抗議の対象は。」
テキサス州の映像「今までこんな光景見たことない」
ナレ「トランプ大統領を支持する旗を掲げながら車列を組む、トランプ支持者の車です。全米各地で道路を封鎖するなど混乱が起きています。」"
"ナレ「こちらはトランプ大統領がツイッターに投稿した映像です。テキサス州の高速道路を走るバイデン陣営のバス、トランプ支持者の車が取り囲み走行を妨害しているのです、その後バイデン氏の集会は中止に追い込まれましたが、トランプ大統領は。」
トランプ大統領（Twitter）「私はテキサスを愛している。」
ナレ「演説でも支持者による行動を褒め称えました。」
トランプ大統領「私達の仲間がバスを守ってあげていたんだ、彼ら（支持者ら）は素晴らしいからだ。」"
"ナレ「トランプ大統領は 9 月のテレビ討論でも」
トランプ大統領「私の支持者には投票所に行って監視してほしい。」
ナレ「このメッセージを受けとった""ミリシア""と呼ばれる武装グループが選挙当日、投票所に押しかけるとの報道もあります、投票日を前に高まる治安への懸念、射撃場で銃を撃つ女性たち、その中には 14 歳の少女の姿もありました、ペンシルベニア州に住むアリさん、この日初めて母親とともに銃のレッスンを受けました。」
アリさん「（初めて銃を撃ち）ワクワクしました。銃のことは尊重していましたが、実際にどう扱うか知りませんでした。」
ナレ「アメリカでは銃を買い求める人が急増、FBI によると銃の販売件数のバロメーターとなる身元調査の件数が去年に比べて 4 割も増えています。」
アリさん「家に銃があると思うと安心できます。銃を使う可能性は低いですが、銃について知っておくのは良いことと思う。」
ナレ「異様な雰囲気の中でアメリカは明日、投票日を迎えます。」"
　VTR を受けて以下に朱記したようなやり取りがスタジオと中継の間で繰り広げられた。
"小川彩佳「銃を買う人が増えているというのは異様な物々しさを感じますけれども、首都ワシントンの今の様子

はどうなっているでしょうか、岩田さん。」
岩田夏弥「はい、大統領選挙前日の朝を迎えたワシントンです、こちらの建物はですね我々も含めまして海外の多くのメディアのワシントン支局が入っているナショナルプレスビルなんですが、ご覧の通りガラス一面板で覆われています。ワシントン DC の当局のよりますと明日は相当な数のデモが予定されているということでして、暴動などに発展することを警戒しているわけですが、世界の先進国であるアメリカの選挙前日とは思えない信じがたい光景が広がっています。」
小川彩佳「そして今回は郵便投票を含めて期日前投票非常に多くなっているということですけれども、その集計を巡っても混乱が心配されますよね。」
岩田夏弥「そうですね、アメリカのニュースサイトのアクシオスはトランプ大統領は選挙の当日に開票が十分に進んでいない段階でも自身の得票が先行していると判断した場合、一方的に勝利を宣言する方針を周囲に伝えたと報じています。トランプ氏はこの報道を否定しているんですが、選挙当日よりも後に票を集計することについてはひどいことだ、と述べて、改めて郵便投票への強い不信感を示しています。ただ、民主主義の根幹である選挙の仕組みを大統領自身が否定するような対応を取れば大きな混乱が起きるのは確実です、郵便投票も含めて堂々と勝てる自信があれば、こうした報道もでてこないはずですから、やはりトランプ大統領が相当焦っていることの現れだと言えると思います。」"
村瀬健介「はい、ここからはですね、最新の世論調査のデータを見ていきたいと思います。まず、全米での支持率なんですけれども、ご覧いただけますように 6.9 ポイントの差をつけましてバイデン候補が有利となっています。ただ、この大統領選挙の勝敗はこちらに上げました激戦州と呼ばれる 6 つの州の勝敗にかかっているんです。これまでの世論調査ではいずれの州でもバイデン候補有利と言われていたんですけれども、その差は徐々に徐々に狭まってきています、つい先程出た世論調査の結果ではノースカロライナ州でトランプ大統領、若干有利という結果も出始めています、ただ問題はですね、こうした世論調査のデータがどこまで信用できるのかということなんです。といいますのも、前回 2016 年の大統領選挙、同じ激選州 6 州の世論調査、民主党のヒラリー候補が有利だというデータが多く出ていたんです、ところが蓋を開けてみますとその全ての 6 州でトランプ大統領が勝利するという結果になりました。このように世論調査と実際の結果との間に乖離があったのはトランプ大統領の隠れ支持者がいるということが注目されたわけなんです、この隠れトランプ支持者という存在、今回どうなのかというところが注目されるますけれどもフォックス・ニュースがこういう調査をしています、まず『あなたが今日投票するのならどちらに投票しますか』という質問に対しては 42%対 49%でバイデン候補が有利というふうに出ているんですけれども、この質問をですね、『あなたの隣人、お隣さんはどちらを応援していますか?』という質問に変えますと結果が真逆に出るんです、この差がですね、トランプさんの隠れ支持者の存在が理由ではないかというふうに言われているんです。」
"小川彩佳「この 4 年の間にもトランプ大統領を支持する人支持しない人の間の亀裂というのは顕著になっていますから、トランプ大統領支持を公言できない人がいてもおかしくないなというふうに感じてしまいますが、星さん、どう感じますか。」
星浩「まぁ 4 年前はね、この隠れトランプに我々もちょっと困った結果が出たんですけれども、ただ 4 年前とはちょっと様相が違っていると思うんですね、4 年前はトランプさんある意味新人ですから、トランプさんの名前をあんまり上げたくないという人はいたんでしょうけれども、4 年間現職ですからね、トランプさんの名前を上

げたくないという人はまぁ減ってきているんだと思います、それでも若い人になるとトランプさんの名前を上げたくないという人も一定数いるので、それについては世論調査の精度を上げるために若干の微調整をしているようですね。」
小川彩佳「世論調査の精度が上がっているとなるとじゃあ今回のこの数字は信用できる、と。」
星浩「今のところは信用できると思いますね。」
小川彩佳「とすると、バイデン氏有利というのは。」
星浩「はい、バイデンさんの有利というのは動かないと思います、ただ民主党からすると圧勝したい、あんまり僅差ですとトランプさんが訴訟、特にその郵便投票についてトランプさんはその不正の温床と言っていますので、訴訟に働きかけますので、それを阻止するためにも民主党は圧勝する勝ち方の勝負、ということになってくると思いますね。」"

このトピックについて当てられた時間は 704 秒で時間配分は以下の通りであった。



放送法上は特に問題は見られなかった。

・アパレル業界に広がる「サスティナブル」：結論→特に問題なし

山本キャスターの「こちらモデルや俳優として活躍する水原希子さんが来ているのは大手アパレルメーカー H&M の製品なんです、実はこの複、リサイクル生地で作られたものでして、アパレル業界では今、気候危機に対応したサスティナブルな服がキーワードとなっています。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR

が取り上げられていた。
"シェルバ英子さん（ファーストリテイリング）「こちらなんですが本日から発売いたしましたリサイクルダウンジャケットになります。」
ナレ「今日からユニクロが発売したダウンジャケットは客から回収した製品からダウンだけを取り出し、再利用したものです。2006 年から商品のリサイクル活動を行っていましたが、回収した服から新しい服を作るのは初めての取り組みだと言います。」
買い物客 A「非常にいいと思います、毎年買い換えることもあるから、なんか使い捨てみたいな感じであんまり良くないじゃないですか。」
シェルバ英子「売って売りっぱなし、ですとか、廃棄問題っというのは非常にやはり社会課題として大きくなっていますのでサスティナブル（持続可能）な商品を作っていかないと企業しての存続が成り立たない。」"
"ナレ「今、アパレル業界は環境への配慮から大量生産大量廃棄に対し厳しい目が向けられています。国連の補助機関、国連貿易開発会議はアパレル業界を世界で第二の汚染産業とみなしています、その理由として全世界の排水の 20%を作り出す、生産により全世界の温室効果ガス排出量の 8%を占める、毎秒、ゴミ収集車一台分に相当する繊維が埋め立てられたり焼却されたりしているなどと指摘しているのです。そこでアパレル業界では古着を回収し、材料として再生、そこから新たな衣料品として再生する衣料リサイクルに力を入れ始めています。使い古された靴下を機械が取り込み、繊維として再生し新しい糸へと変化させる動画、これはアパレルブランド H&M がスウェーデンのストックホルムの店舗に導入した新シリサイクルシステムで古着が再生されていく様子を来店客が間近で見ることができるというものです。古着に価値を見いらし、新たな資源として使えることを視覚的に訴えるこのシステムについて H&M は今後増やしていくことを検討していると言います。一方で、こんな取り組みも。」
中山瑠美（報告）「不要になった衣料品を持ち込むと 1000 円 OFF のチケットが貰えます。」"
ナレ「アパレル大手のワールドは来られる状態であればメーカーを問わず一点につき 1000 円相当のチケットと交換するキャンペーンを都内の百貨店で開催中です。初日だけで 5000 枚以上の持ち込みがあったと言い、引き取った衣料品は国内外で再利用されます、環境志向の消費者を取り込もうとする動きはまだまだ広がりそうです。」
　VTR を受けて、スタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。
"山本恵里伽「アパレル業界でリサイクルの動きが広がっていますが、きっかけの一つになった出来事があります。2017 年にイギリスの高級ブランドバーバリーが売れ残った衣料品などおよそ 41 億 8000 万円分を焼却処分していたという報道がありました、これは安く出回ることによってブランド価値の低下を防ぐためと見られているんですが、結果的に国際的な批判を浴びることになりました、その後バーバリーは売れ残った商品の廃棄を一切しないと宣言をしまして、在庫管理など徹底しているということなんです。」
小川彩佳「やはりこの 40 億という金額の衝撃もあって大量廃棄の実態を知る切っ掛けになった出来事ですよね。」
山本恵里伽「そうですよね、ただ日本も例外ではないんですね、こちら見ていただきたいんですが、昨年国内で供給された衣料品 28 億 4600 万点と言われているんですが、その半分に当たる 14 億 7300 万点が売れ残ったと推測されているんです、まぁこれ、全てが廃棄されたわけではないんですが、まぁ現在のアパレル業界の現状が浮き彫りになる数字ではありますよね。」

小川彩佳「こんなになんだ、って想いますよね、大きな社会問題ですよね。」
山本恵里伽「そこで今、注目されている取り組みがこちらなんです。ブランドタグの付け替えなんですね、株式会社 FINE という企業では売れ残った在庫などを安く買い取りまして、ブランドタグと洗濯表示を取ってリネイムという新たな自社のタグに付け替えるんです、そうした商品をオンラインショップで定価の 3 割から 8 割引きで再販売するという取り組みを行っているんです。」
小川彩佳「私、先程こちらのオンラインショップ覗いていましたけれども上質なお洋服が安く手に入るというのはすごくいいことだなと思う一方で、環境に配慮したものを購入しているとなんだかそれだけで清々しい気持ちになりそうだなというふうに想いますよね。」"
山本恵里伽「そうですね、ちょっといいことをしたなという感じにもなりますしね、ちなみに取り扱うブランドは 40 以上ありまして、どんどん増え続けているということです。」
　このトピックについて当てられた時間は 357 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・日本学術会議：結論→他の放送日との合わせての判断が必要
　村瀬キャスターの「続いては政治のニュースです、菅総理が就任して初の本格論戦となる予算委員会の審議が始まりました。日本学術会議を巡って『個別の人事については答えられない』と繰り返す総理、しかしこの菅総理の著書との矛盾が指摘されています。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。
"菅総理「私も全周中の呼吸で答弁させて頂きます。」
ナレ「人気アニメ、鬼滅の刃のセリフに触れ、本格論戦に臨んだ菅総理、全集中の呼吸とは主人公が鬼と戦うために会得した呼吸法で、鬼とも互角に戦えるようになります。野党側は菅総理が日本学術会議の会員候補 6 人の任命を拒否した理由について改めて質しました。」"
"江田憲司（立憲民主党代表代行）「総理はこの任命を拒否した 6 人の方の研究や業績について、まぁ一体どれほどのことをご存知でしたか？」
菅総理「私は加藤陽子先生以外の方は承知していませんでした。」"
ナレ「6 人のうち、5 人の業績については知らなかったと言います、では、どのように任命しないと判断したのでしょうか。」
菅総理「私は官房長官の時から、学術会議に様々な懸念を持っていました、かねてより、多様な会員を選出するべきと言われながら、現状は出身や大学に大きな偏りがあります、閉鎖的で既得権のようなものになっていると、これ言わざるをえないというふうに思います。」
ナレ「菅総理は学術会議の会員は旧帝国大学などに偏りがある、民間人や若手が少ない、などとしてこれまでの指摘を繰り返しました。しかし任命を拒否された 6 人のうち、三人は旧帝国大学ではない私立大学の教授です。」
"江田憲司「今回 6 人任命拒否のうち、三人は私大出身ですよ、総理が少ないと言われたね、ひとりは女性ですよ。女性を増やせと、女性一人を拒否された、そのバランス論にたったとしても、あの、総理が仰っていることは支離滅裂ではありませんか。」
菅総理「通常の公務員の任命と同様にその理由についてこれは人事に係ることですから答えは差し控えるべきだと思いますよ。」"

ナレ「個別人事についての言及は控えると繰り返し強調しました、ここで野党側が注目したのは先月、改訂版が発売された菅総理の著書の一冊です。総務大臣時代、NHK 改革を行った際に担当課長を更迭した菅総理、この課長が新聞社の論説委員に対し、改革に後ろ向きな発言をしたことを理由に上げ、こう綴っていました。『論説委員の質問に答えるならいいが、質問もされていないのに一課長が勝手に発言するのは許せない。担当課長を変える。』」

"今井雅人（立憲民主党衆院議員）「個別の人事はこんなに詳細に仰っていますよ。なぜ、本で言えて、学術会議では言えないんですか。」

菅総理「その政策に反対をしたからですよ。いや、それはもう表になっている人ですから、それと今回の任命権とは全く違うじゃないでしょうか。」"

"ナレ「一方、与党側は菅政権が目指す 2050 年までに温室効果ガスを実質 0 にするいわゆるカーボンニュートラルを実現する上で原発を活用すべきだと主張しました。」

下村博文（自民党政調会長）「脱炭素社会を考える時、原発の問題はもう避けて通れないのではないか、と思っています、必要なエネルギーをすべて再生可能エネルギーに賄うのが理想ではありますが直接的にそこに辿り着こうとすれば、2050 年カーボンニュートラルそのものが絵に描いた餅になりかねないのではないかと思います、安全性を最優先にしながら原子力を利用し。」"

ナレ「最新の発電量の比率を見ると、CO2 を最も排出する火力発電の割合はおよそ 8 割、再生可能エネルギーが 16.9%、一方原発は再稼働が進まず 6.2%です。」

"山際大志郎（自民党衆院議員）「再稼働がどこまで進めばそれが達成できるのか。」

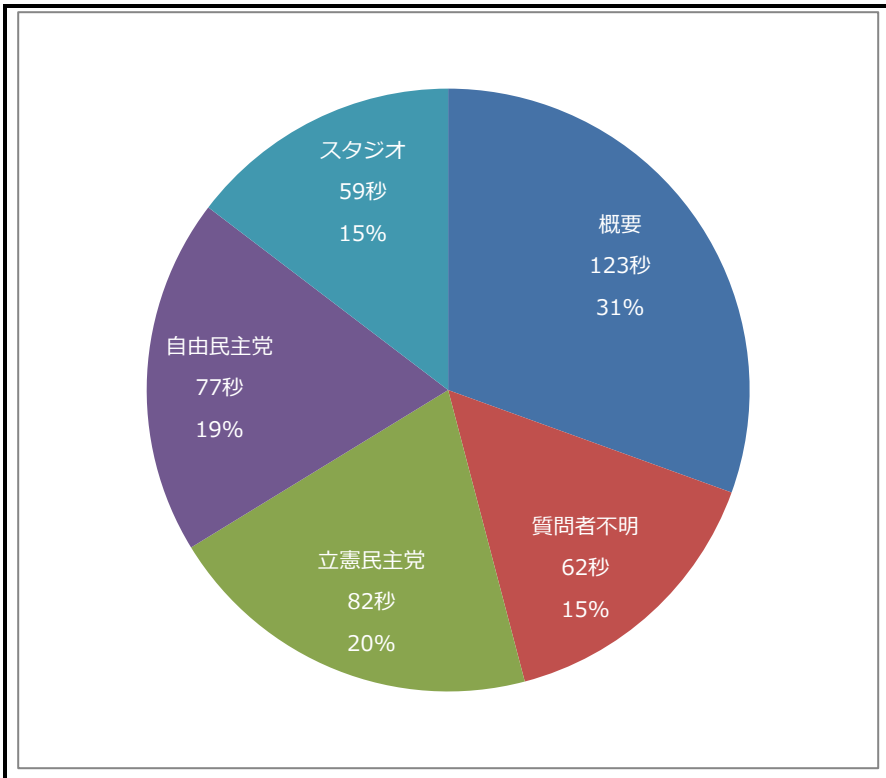
梶山弘志（経産相）「全ての手段やリソースというのを駆使していかなければ 2050 年のカーボンニュートラル達成できるとはなかなか難しいとは思っています 36 基、建設中のもの、また、未申請のものもありますけれども、そういった中でまぁしっかり再稼働に向けて取り組みをしていくということでありますし。」"

VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。

"小川彩佳「そして国会に話を戻しますと予算委員会の審議に話を戻しましたが、日本学術会議の問題、今回また新たにわかったことというのはあるんでしょうか。」

星浩「そうですね、一問一答でやっていくと少しずつやっぱり論点が絞られてくると思いますね。まず、その菅さんは公務員の人事の説明はしないんだと言っているんですけれども自分が総務大臣のときに NHK 改革に後ろ向きだった担当の課長を更迭しました、と意外と説明を縷縷やっているんですね、著書の中でね。それからあの、こんな指摘も野党側から出たんですね、任命拒否の理由を学術会議の少なくとも会長には言わないとこれから来年からどういうふうに推薦していいのかわからない、と、これは私は非常にまっとうな指摘だと思うんですね、つまりその総理大臣というのはものすごい権限を人事権を持っているわけですよね、ですからこの人事権を行使するにあたってやっぱりその説明する責任も伴うんだということを菅さんは自覚してもらいたいと思いますね。」

このトピックについて当てられた時間は 403 秒で時間配分及び比率は以下の通りであった。



誰の質問に対する答弁かがわからない箇所が一部あった。

今回の報道では上記のような時間配分および比率で質疑が取り上げられていが、今回の報道のみで判断するには早計であろう。他の放送日との合わせての判断が必要と考えられる。

・大阪都構想：結論→問題あり

大阪都構想について以下に朱記したような VTR が取り上げられた。

ナレ「一方、昨日の住民投票で反対多数となった大阪都構想を巡っては。」

松井一郎（日本維新の会、大阪市長）「結果はもう皆さんもご承知のとおり、否決であります、この構想は終了を致しました。」

ナレ「敗戦の責任をとり、大阪の松井市長は残り 2 年半の任期を全うしたあとで政界を引退すると表明、地域政党大阪維新の会の代表も近く辞任する意向です。松井市長と頻繁に連絡を取り合い良好な関係を維持してきた菅総理は。」

菅総理「大都市制度の議論において一石を投じることだったんではないかな、というふうに思います。」

"ナレ「ただ、自民党の大阪府連は都構想に反対し、維新側と対立してきました、党内にはしこりが残っています。」

自民中堅議員「菅総理は中立を貫いた、大阪府連の菅さんに対する不信感はものすごく大きいよ。」"

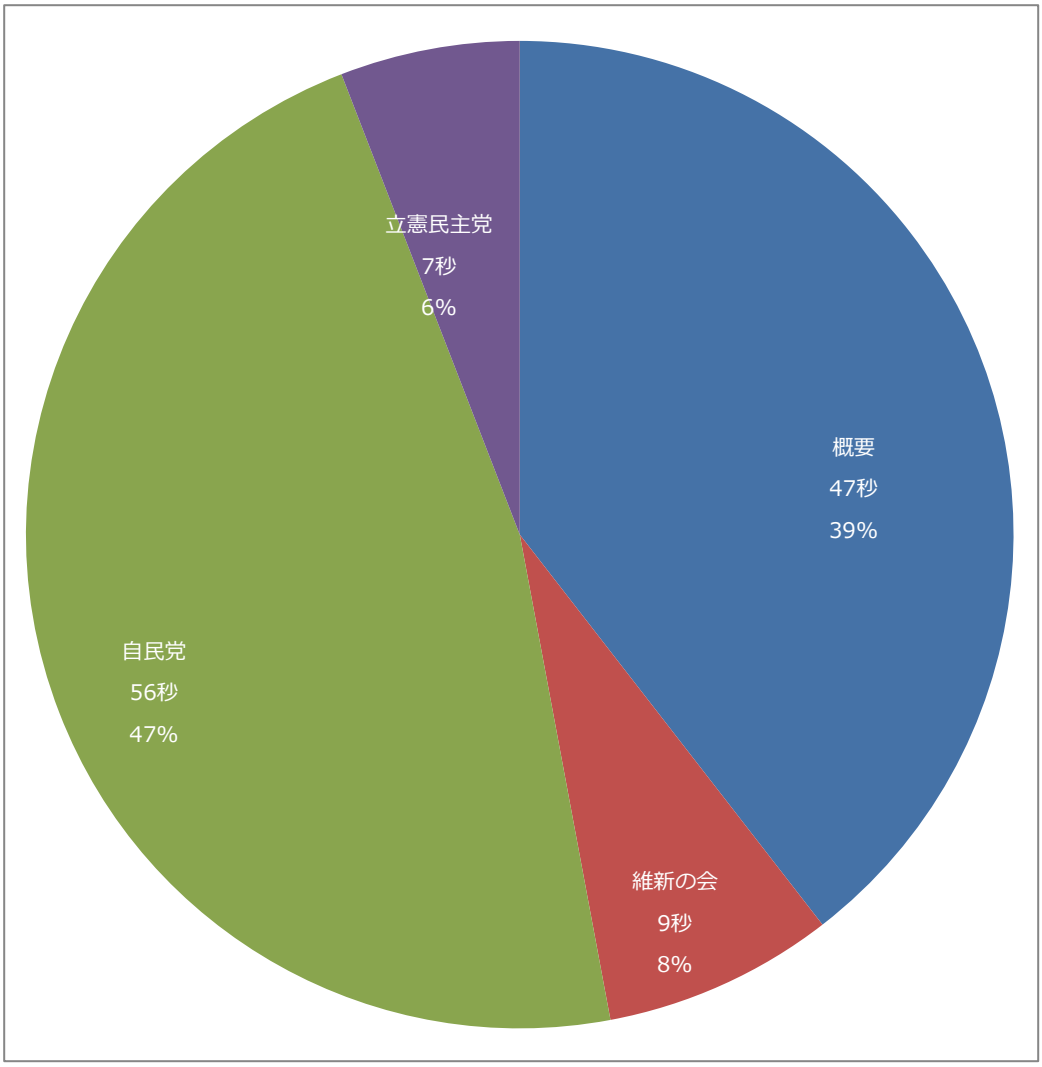
"ナレ「また、日本維新の会は大阪都構想という看板政策を失った今、今後は憲法改正の議論で自民党との連携を模索しようとするのではとの指摘も出ています。」

自民大臣経験者「維新は埋没しないように憲法改正で自民党によってくると思う。」"

安住淳（立憲民主党国対委員長）「自民党の隠れ補完勢力的にやって来ましたけれども、まぁ今後どういう立ち位置になるのか。」

ナレ「大阪都構想の否決は菅内閣の政権運営にも影響を及ぼすと飲み方も広がっています。」

このトピックについて当てられた時間は 119 秒で時間配分や比率については以下のとおりだった。



大阪都構想については NEWS23 ではこれまでほとんど取り上げてこなかった。そのため視聴者には大阪都構想の争点はもちろん対立構図もわかりにくく感じたことだろう。こうした重要な問題をこれまでほとんど取り上げてこずに昨日の住民投票を迎えるという報道姿勢は放送法第四条一項四号「意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにすること」という点に照らしても非常に問題があるといえる。

・千葉県知事選挙：結論→特に問題なし

小川キャスターの「千葉市の熊谷俊人市長が来年 4 月に任期満了を迎える千葉県知事選挙に立候補する考えを正式に表明しました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられた。

熊谷俊人「来年行われます、千葉県知事選挙に」立候補する決意を固めました。

ナレ「熊谷氏は千葉市の市議会議員を経て 2009 年に千葉市長選に初当選、現在 3 期目を迎えています、来年 4 月に行われる予定の千葉県知事選挙を巡っては自民党千葉県連が推薦する予定だった前のスポーツ庁長官の鈴木

大地氏が立候補を見送る意向を伝えていたことが明らかになったばかりです。現職の森田健作知事はまだ態度を明らかにしていません。」

このトピックについて当てられた時間は 47 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・大阪都構想

NEWS23 では日本維新の会の国会での質疑はおろか、大阪都構想すらもほとんど取り上げていかなったので、視聴者からすると立憲民主党の安住淳国対委員長の「自民党の隠れ補完勢力的にやって来ましたけれども、まぁ今後どういう立ち位置になるのか。」とのコメントを聞けば、維新が自民の補完勢力と誤解をしてしまうのではないだろうか。

確かに野党勢力の盟主的存在である立憲民主党で国対委員長を務め与野党対立の最前線で指揮を執る安住氏から見たら、野党勢力として共同歩調を取らずに独自路線をとる維新の会が「自民党の隠れ補完勢力」に見えるというのは分からなくもないが、それはあくまでも国政における維新の会のスタンスであり、お膝元の大阪では全く違う対立構図があるということも見落としてはならないだろう。

そもそも NEWS23 では日本維新の会をほとんど取り上げてこなかったが、それでは大阪都構想の問題も国会での与野党対立も見えてこないのではないだろうか。

NEWS23 週刊報告　詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2020 年 11 月 3 日

出演者：星浩、小川彩佳、村瀬健介、山本恵里伽、石井大裕
　　パトリック・ハーラン

検証テーマ：アメリカ大統領選挙、苦境の文化芸術、核のゴミ、香港で公共放送ディレクターが逮捕

報道トピック一覧

・アメリカ大頭症選挙
・新型コロナウィルス第三波への懸念
・苦境の文化芸術
・核のゴミ
・ウィーンでのテロ襲撃犯がイスラム国への入国を検討していたことが判明
・オランダ南部の列車が脱線事故
・香港で公共放送ディレクターが逮捕
・宮崎大輔選手が釈放
・スポーツ報道
・九段下駅で催涙スプレーを吹きかけた男が逃走
・埼玉県草加市で父親の遺体を切断し放置した事件で息子を逮捕
・天気予報

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

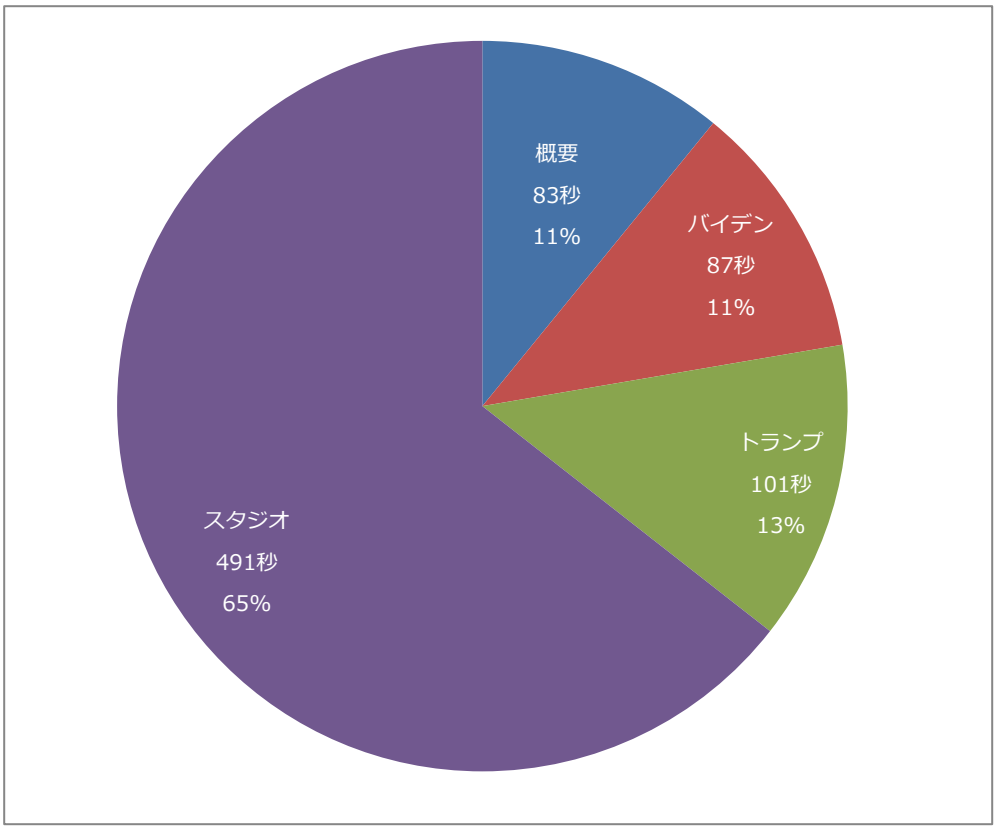
・アメリカ大統領選挙：結論→特に問題なし

　アメリカ大統領選挙について以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"ナレ「決戦の日。」
報告「午前 7 時をまわりました、激戦州ペンシルベニアでも投票が始まり、投票所の前には長い列ができています。」
ナレ「アメリカ大統領選の投票が始まりました。両陣営のアピールは最終日まで続きました。」"
"民主党バイデン候補はオハイオ州で一回集会を行った以外は出身地ペンシルベニア州の三ヶ所を回り支持固めを図りました。」
バイデン（民主党前副大統領）「この国を変える力はあなた達が持っている。トランプは荷物をまとめて家に帰る時が来た。」
ナレ「そして、最後の集会に駆けつけたのはあのレディー・ガガさんでした。」
バイデン「演説はレディー・ガガにしてもらって私は歌いましょう。」
レディー・ガガ「愛しているわ、ペンシルベニア！投票してトランプを落選させよう、今こそ行動を起こす時、私達の人生がかかっている選挙です。今こそ前に出て投票するのです！」
ナレ「そしてバイデン候補が最後に訴えたのが。」
バイデン「明日は新しい日の始まりです。塗り重ねられたウソではなく、私達は真実を選ぶ。」"
"ナレ「一方、トランプ氏が集会の場所にあえて選んだのはバイデン氏が生まれたペンシルベニア州のまちでし

た。」
トランプ大統領「明日、共和党支持者たちの大きな赤い波を診るだろう、バイデンたちを吹き飛ばそう。」
ナレ「この日、4 つの激戦州を飛び回ったトランプ氏、これは先週末 Twitter に投稿した動画です。」
トランプ氏の Twitter「Q:科学者がやれと言ったらもう一度米国を封鎖するか。バイデン：風察するつもりだ。字幕：バイデンに経済封鎖をさせては行けない、トランプに投票しよう。」
ナレ「選挙戦当日、ギリギリまでバイデン候補へのネガティブキャンペーンを繰り返しました、そしてトランプ氏が 4 年前、最後の訴えの地に選んだのは前回の大統領選挙でも最後の集会を開いたミシガン州、グランドラピッツでした。」
トランプ「これが大いなる勝利に向けた我々の最後の夜だ。」
ナレ「演説を始めたのは深夜 0 時前。」
トランプ「ここミシガン州で勝利し、とても撃つ香椎ホワイトハウスでさらなる 4 年間を手に入れる。」"
"ナレ「日本時間の午後八時から既に各地では投票は始まっていますが、こんな懸念も。」
尾関淳哉（報告）「投票日を翌日に控えロサンゼルスでもこのように店の前に木の板を立てつけるなど混乱への警戒が強まっています。」
ナレ「今後、全米各地で相当数のデモが予想され、不穏な空気が漂う中、投票が進んでいきます。」"

このトピックに当てられた時間は 775 秒で時間配分および比率は以下の通りだった。



・苦境の文化芸術：結論→特に問題なし

小川キャスターの「こちらは今日行われましたタップダンスの公演です、世界的なタップダンサー熊谷和徳さんが実に9ヶ月ぶりにライブを行ったんですね、新型コロナの影響で文化芸術活動非常に厳しい状況が続いていますが、私達には一体何ができるんでしょうか。」とのコメントを受けて以下に朱記したようなVTRが取り上げられた。

ナレ「今日、高知県立美術館で行われたサーカス。パントマイムにジャグリング、現代サーカスの魅力を知ってもらいたいと無料で開かれ公演の様子はライブ配信されました。こちらはエアリアルアーティストの品川瑞木さん。世界のサーカスやシルク・ドゥ・ソレイユで活躍していました。東京では小学生による子供歌舞伎の公演が行われました。文化の日に行われたこれらのイベントは文化庁が資金を支援しています。ぴあ総研の調べでは今年2月から来年1月までの1年間でエンタメ業界は入場料収入だけで6900億円が失われる見通しです、文化庁は文化芸術活動の進行を図るため、支援事業を始めたのです。」

大和滋（ジャパン・ライブエール・プロジェクト）「転業を考えるとかですね、まぁ違う仕事をやるというのはかなりの数の話を聞いていますね、お客さんも植えているし、想像者も求めている、と。」

"ナレ「横浜で行われたタップダンスの公演、ニューヨーク在住の熊谷和徳さんが九ヶ月ぶりに公演に望みました。」

熊谷和徳（タップダンサー）「アーティストにとって何もできない状況っていうのは本当にその生きていることの目的都会ミッみたいなことをすごく失うことくらいつらい状況ですね。」

ナレ「熊谷さんはアメリカの雑誌で世界で見るべきダンサー25人に選ばれるなど、世界的に注目されるタップダンサーのひとりです。」

熊谷和徳「スタッフの人達も仕事を失っていたわけなので、知恵を絞ってやれるということが今回すごく収穫だった。」

ナレ「演じる側だけではありません、観客側も一体となって久しぶりのライブを楽しみました。」

観客A「心に響いて言葉が出ません。」"

VTRを受けて以下に朱記したようなトピックが伝えられた。

"小川彩佳「改めて呼吸を交わして熱気を上げてという環境でね、芸術を楽しみたいなという気持ちを今感じましたけれども文化芸術の消費喚起策としてはGoToイベントというのが始まったばかりなんですね、で、利用者はチケットを2割引で購入することができるんですけれども対象は音楽コンサートだったり、美術館も含まれていますね、そして無観客ライブ配信など、こういったものがあるんですが、アメリカではどんな取り組みがなされているんですか。」

パトリック・ハーラン「まぁやっぱり地域によってヨーロッパもそうなんですけど、感染拡大がまだ続いていて、生で見られない状況が続いていますから、やっぱり公金で支援する国が多いです、例えばイギリスは2億5000万ポンド以上の支援金を出しましたし、ドイツは10億ユーロ以上出しています、その上にフリーランスの方であっても失業手当がもらえるようにルールを改正したのです、一方、アメリカは結構ケチです、公金としては76億円相当しか出していませんが、アメリカは芸術芸能関係の仕事をしているのは500万人いますから、ひとり3000円弱です。」

小川彩佳「3000円弱ですか。」

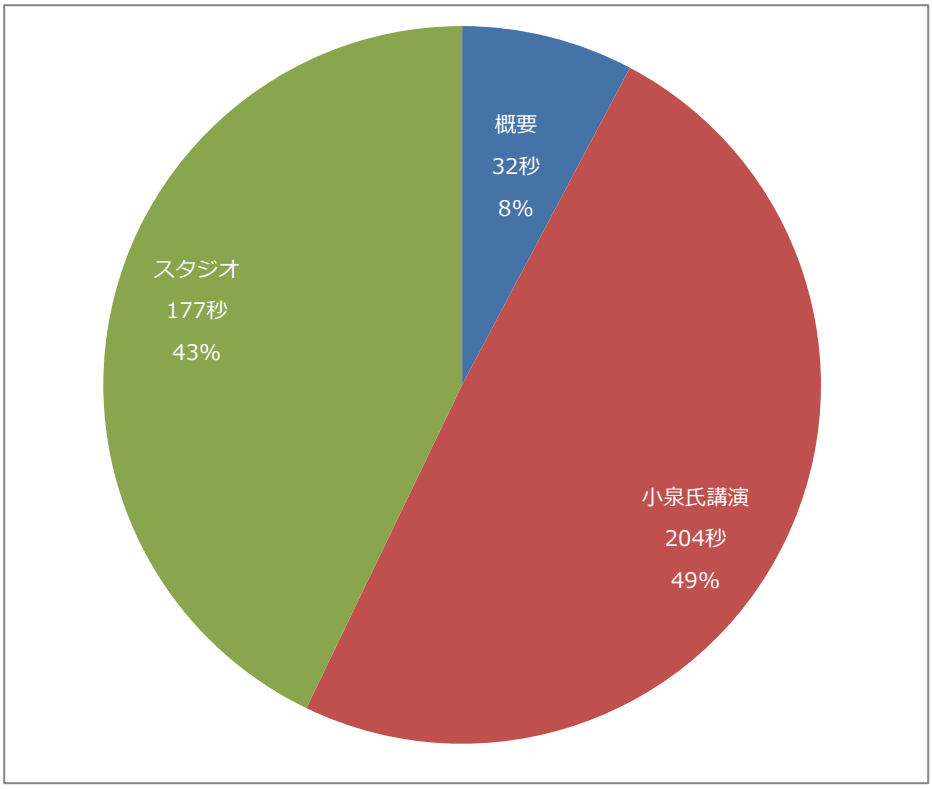
パトリック・ハーラン「はい、全く生活できないです、日本の場合はやっぱり生で見れるならパフォーマンスとしてもこっちが一番だと思いますよ。」
小川彩佳「そうですよね、本当にこうした活動には政府の支援策、こういったものを活用したいところですけれども、星さん、政府の支援策だけではまぁ限界があるというところが言えますよね。」
星浩「そうですよね、本当に文化芸術支援こそその菅さんが言っている自助共助公助、この辺の組み合わせですよね。ですからまぁ一人、自助だけでは無理ですから、かと言って国のお金だけではね、いくらなんでもできないので、これはやっぱり仲間でクラウドファウンディングとかでお金を集めてその全体の活動の支援の枠組みをね、作るアドバイスをするのとかが国の役割だと思いますね、はい。」"

このトピックに当てられた時間は 397 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・核のゴミ：結論→今後も注視が必要

小川キャスターの「さて続いてはいわゆる核のゴミについてです。村瀬さん。」とのコメントおよび村瀬キャスターの「「はい、核のゴミの最終処分場をめぐり第 1 段階の調査に名乗りを上げた北海道の寿都町、きょう街を訪れたのは小泉純一郎元総理です。核のゴミについて何を語ったのでしょうか。」"とのコメントを受けて以下に朱記したような VTR が伝えられた。
"住民 A「先生が世界で見て来られた核に対する考え方を是非寿都の住民の方に教えていただいて、」
ナレ「核のゴミの最終処分場問題で揺れる北海道寿都町を訪れた小泉元総理大臣、建設への第一歩となる文献調査に反対している町民が招きました。」
小泉純一郎（元首相）「核のゴミ、処分場がない、それでよく政府は許しているな、再稼働を許しているな、と呆れているんですけれども。」"
（CM）
"ナレ「今日午後、北海道寿都町を訪れた小泉元総理、今や代名詞となった脱原発について語りました。」
小泉純一郎「もう今、どこにも原発の処分場がない、政府は原発進めているけれどもアテがないんです。再稼働させるとまたゴミが増えるんです、これはなんとしてもできるだけ早く原発ゼロにする方向に舵を切らさないといかん」
ナレ「小泉氏は在任中、原子力政策を推進してきました、しかし、3 月 11 日原発事故が発生、それ以来、脱原発にかじを切り、全国で公演を重ねてきました。小泉氏はフィンランドの最終処分場を訪れたときの際のことについて語りました。」
小泉純一郎「世界でたった一つ核のゴミの処分場が建設されています。約 400 メートルの地下に螺旋形の道路ができています、頑丈な哲の円筒形の筒を作ってそこに核のゴミを入れて、埋める。日本だったらね、おそらく 400 メートル地下ほったらね、水分どころじゃない、温泉が出てくるね。」
ナレ「地下水の多い日本で安全に処分場を作ることは難しいと主張しました。そして小泉氏が訴えたのが原発と石炭火力によらないクリーンエネルギーの推進です。」
小泉純一郎「不可能じゃないと思っています、現に事故の 2 年後、ゼロでやってきたんですから、今、世界的に石炭火力もやめようということになっています、原発ゼロでも石炭ゼロでも十分、自然の恵みを受けて生活できるような状況が必ずできると思うんです。」

参加した寿都町民 B「核のゴミなんていらないから、これからの子どもたちのことを考えるとないようにしてほしいと思います。」
参加した寿都町民 C「元総理大臣に来てもらったことが、あのみんなにね、反対ということに知ってもらえて。」
ナレ「寿都町の文献調査の事業計画は今月中旬にも認可され、調査が始まる見通しです。」
　VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。
"小川彩佳「その、核のゴミの最終処分を巡って各国の助教を見てみますと、最終処分値が決まっているのはフィンランドとスウェーデンだけなんですね、で VTR の中で小泉元総理が言及していましたフィンランドのオンカロは 2016 年に建設が始まりまして 2020 年第 2 創業が始まる予定だと、フランスは処分場を建設する方向で地下調査中、そして中国も内陸を候補に処分地を選定中だということです、アメリカは今どういう状況なんでしょうか。」
パトリック・ハーラン「アメリカはどこの国と同じような状況です、詳しく説明しますとこちらはネバダ州にありますユッカマウンテンという核のゴミ最終処分場なんですけれども、これ実は決まっていました、2002 年にこちらにしましょうと、ブッシュ大統領政権中に決めたんですが、二回もブッシュに票を入れていたネバダ州に対してオバマは僕になったら停止します、と約束してそのとおりに停止したんです、でまたトランプ大統領になったら再度再開する計画もあったんですけど、それも結局打ち切りになったんですよ、なぜかというとこのネバダ州は激戦州です、地元の皆さんの票をどうしてもほしいというのが現実です、ちなみにオバマのときは上院議員の議長もネバダ州の上院議員だったんです。たまたまこのネバダ州の政治力が高まった時期でもあったんですが、これはね、アメリカでユッカマウンテンというと誰もが口に出す一単語があります。それがこちら。""NIMBY""、""Not In My Back Yard""。僕の裏庭には絶対作らせないぞ、というこの熱い気持ちを示すものです、どうしても必要、欲しいものだと思っても、地元の皆さんはどっかにほしいけれどこっちには絶対に作らせない、この気持はおそらく万国共通です。それを象徴するような施設です。」
小川彩佳「必ず核のゴミには向き合わなければならない、それは誰もがわかっているのに前に進まないのはやはりこういうところがあるからだと。」
パトリック・ハーラン「そうなんです、ですから全国のニーズと地元の皆さんの気持ちのバランス、折衷案、妥協点をやっぱりどこの国も早く見つけて解決しないといけないところなんですね。」"
"小川彩佳「そういった中で菅政権はどのように向き合おうと。」
星浩「そうですねこれは総論賛成各論反対みたいな話なんですけれども、菅政権はですね、2050 年に温室効果ガスを実質 0 にするということを打ち出したんですけれども、その中でおそらくこの原発が増えていくということにならざるをえないと思うんですね、そうするとまた処分場も増やさざるをえないということなんですけれども、私自身はね、その原発を将来的にやめて、その中で処分場についてみんなで話し合うべきだと思うんですけれども、やっぱり将来的にどうするのかというのを決めないままね、処分場の確保だけ進めていくというのは私はちょっと将来世代に対して無責任だと思いますね。」"
　このトピックに当てられた時間は 413 秒で、時間配分および比率は以下の通りだった。



このトピックについては賛成側の動きも見る必要があり、今後も注視が必要と考える。

・香港で公共放送ディレクターが逮捕：結論→特に問題なし

ナレーションによって「香港の新改築で去年 7 月に抗議デモの参加者が襲撃された事件をめぐり警察を批判的に報じたドキュメンタリー番組を放送した公共放送 RTHK のディレクター蔡玉玲氏が逮捕されたと香港メディアが報じました。番組を制作した際に車両ナンバーを調べた行為が道路交通条例に違反したということで民主派議員らは報道機関への弾圧だと強く反発しています。」とのことが伝えられた。

このトピックに当てられた 35 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特に問題なし

検証者所感

・苦境の文化芸術

スタジオで星キャスターが「本当に文化芸術支援こそその菅さんが言っている自助共助公助、この辺の組み合わせですよね。ですからまぁ一人、自助だけでは無理ですから、かと言って国のお金だけではね、いくらなんでもできないので、これはやっぱり仲間でクラウドファウンディングとかでお金を集めてその全体の活動の支援の枠組みをね、作るアドバイスをするのとかが国の役割だと思いますね、はい。」とコメントしていた。

ところで、そもそも文化芸術支援という名目で公金を投入するほど日本の財政に余裕はあるのだろうか。

また、クラウドファウンディングなどという資金調達のスキームの支援やコンサルティングというのは国家あるいは行政の役割なのだろうか、それこそ民間でできることではないのだろうか。そうしたことに行政が出てくるというのは民間の新たな需要を摘み民業圧迫になるのではないだろうか。

NEWS23 週刊報告　詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2020 年 11 月 4 日

出演者：星浩、小川彩佳、村瀬健介、山本恵里伽、石井大裕

検証テーマ：アメリカ大統領選挙、日本学術会議、アメリカが台湾に無人機 4 期を売却
楽天が携帯乗り換えの手数料を 0 円に

報道トピック一覧

・アメリカ大統領選挙
・日本学術会議
・アメリカが台湾に無人機 4 機の売却を承認
・スリランカの海岸で 100 頭以上のクジラが打ち上げられる
・楽天が携帯乗換の手数料を 0 円に
・スポーツ報道
・天気予報

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

・アメリカ大統領選挙：結論→特に問題なし

アメリカ大統領選挙についてスタジオと中継の間で以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。

小川彩佳「世界が注目するアメリカ大統領選挙、激戦となっています、バイデン氏は『勝利に向かって進んでいる』、そしてトランプ大統領は『この選挙に勝った』とそれぞれ勝利宣言のような会見を行ってはいるんですけれども結果は実際のところまだでていません。現在の状況を確認しておきましょう、こちらです、アメリカ合衆国地図は赤く染まっているように見えますね、トランプ大統領が制した州がこう赤く示されているんですけれども、ただ、勝敗の鍵を握るのは各州に割り当てられた選挙人の数です、現在のところ、両候補がどれだけの選挙人を獲得しているのか、こちらですね。バイデン氏が 238 人、トランプ氏が 213 人ということで大接戦ということになっているわけです、さぁ、今後、どう展開していくんでしょうか、今後の行方を左右するのはこちら、今黄色くかわりました、まだ勝敗がでていない 7 つの州ということになります、投票から一夜明けましたワシントン、ホワイトハウスの前から最新情報を伝えてまいります。岩田支局長よろしくおねがいします。」

岩田夏弥（中継：ワシントン）「はい、ワシントンは選挙から一夜明けまして 4 日の午前九時過ぎです、昨日はですね、明け方までこのあたり多くの人々残っていたんですが、現在は落ち着いた状況になっています、さて郵便投票の急増もありまして、今の所、まだ結果が出ていない州は東部のペンシルベニアや中西部のウィスコンシンなど 7 つあります、つまり結果はまだ出ていません、トランプ氏とバイデン氏のいずれにも最終的な勝利への可能性が残っているわけです。ニューヨーク・タイムズ紙はさきほど『どちらにとっても勝利への道は狭いが、必ずどちらかが勝つ』という趣旨で分析をする記事を先程配信していました。トランプ氏はですね、深夜 2 時過ぎに支持者の前で演説をしまして『まだ開票されていない郵便投票については、どうせ、開票したところでバイデン氏は自分に追いつけないだろう』ということで、最高裁判所に対して開票を止めるように求める考えを示しました。ただ、先程フォックス・ニュースはペンシルベニア州でですね、今朝の開票作業が始まった模様を伝えていまして、トランプ氏の発言の内容には関わらず開票は淡々と進められているようです。」

土居一雄（報告）「はい、バイデン陣営の会場です、バイデン氏はこのあと、副大統領候補のハリス上院議員とともにこちらの会場で演説を行う予定ですが、現時点ではその時間帯は明らかにされていません、トランプ大統領は一方的な勝利をアピールしたわけですが、バイデン氏としてはトランプ氏の行動は想定の範囲内であり、いまだ決着の就いていない激戦州では開票が進むにつれて上積みされる郵便投票で最後は勝ちきれるという計算です。ただ、事前の支持率では激戦州の殆どでトランプ氏をリードしていただけにここまで大接戦になるというのはごさんだったはずです。当初から最後に勝敗を左右するのはラストベルトのミシガン、ウィスコンシン、ペンシルベニアだと想定し、人的資源や多額の資金で大量のテレビ CM などを投入してきた戦略が有権者に届いているの、候補者自身も開票の結果を固唾を呑んで見守っています。」

小川彩佳「はい、朝を迎えて新たな動きが続々と出てくるということになりますが、なお、どちらが勝ったのかわからない状況となっています。トランプ大統領は一方的に勝利宣言、一方のバイデン氏も譲らない構えです。」

　このやり取りを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"ナレ「現地時間は真夜中の午前 2 時 20 分、」

トランプ大統領「我々は大きな祝いの準備ができている。はっきり言って、我々はこの選挙に勝った。私が知る限り我々は既に勝利している。だから皆さんに感謝したい。」

ナレ「ペンシルベニアやミシガンなど激戦州で大きくリードしているとして支持者を前に一方的に勝利宣言をしたトランプ大統領。」"

"深井慎一郎（報告）「今、バイデン前副大統領、支持者の前に姿をあらわしました。」

ナレ「一方のバイデン氏はこの 1 時間ほど前に、」

バイデン「我々は勝利に向かって順調に進んでいる。結果が出るまでは長い戦いになるだろう。しかし、私は結果を楽観視している。」

ナレ「こちらもミシガン、ウィスコンシンは好調でペンシルベニアも勝つだろう、と勝利に自信を示しました。」

バイデン「大変な開票作業が終わるまで、辛抱が必要です。勝者を決めるのはトランプでも私でもない、アメリカ国民の決断です。」

ナレ「バイデン氏は郵便投票など、期日前投票の全ての票が数えられるまで終わらないとしましたが、"

"トランプ大統領は。」

トランプ大統領「我々は最高裁へ行き全ての票を停止するよう求める。午前 4 時に見つかった票を加えてほしくない。」

ナレ「投票日より後に到着した票を集計する州があることに不満を示し、法廷闘争に持ち込む意向を示しました。」

"

"ナレ「前代未聞の大統領選挙、投票は 3 日、一斉に始まりました。」

尾関淳哉（報告）「ロサンゼルスでも投票が始まりました。こちらの投票所、メジャーリーグのドジャースの本拠地、ドジャー・スタジアムの中にあります。」

ナレ「カリフォルニアでは密を避けるため球場を投票所として開設、投票後にグラウンドを背景に記念写真を撮るファンの姿もありました。」"

"ナレ「ワシントン近郊にある自らの陣営に現れたトランプ大統領。」

トランプ大統領「フロリダとアリゾナは好調、テキサスは絶好調だと聞いている。」

ナレ「事前の世論調査で劣勢を伝えられていたのもどこ吹く風、選挙結果に自信を示しました。激戦州の一つ、フロリダ、この地にトランプ大統領の別荘があり、メラニア夫人が投票を行いました。」
記者「気分はどうですか。」
メラニア夫人「とてもいいわ。」"
"ナレ「同じくフロリダに姿を表したバイデン候補の妻ジル夫人は。」
ジル夫人「冷静なリーダーにドナルド・トランプの作ったカオス状態を終わらせてほしければ、私の夫、ジョー・バイデンに投票しなくてはなりません。」
ナレ「バイデン候補はペンシルベニアの生まれ故郷の街で支持者に感謝を伝えました。」
バイデン「今日は明るい話をしたい。K の国を一つにしなければいけない、我々にはできる。そして皆さんにありがとうと言うためにここに来た。」"
ナレ「そうは言うもののこの国は簡単に一つになりそうにありません、高級ブランドが立ち並ぶ通りは混乱や暴動に備え封鎖されるなどの措置が取られています。」
バイデン支持者「何がほしい？正義だ！何がほしい？正義だ！」
トランプ支持者「トランプ！トランプ！トランプ！」
"ナレ「各地でトランプ支持者、バイデン支持者が集まり、」
バイデン支持者「投票でトランプを追い出せ！」
ナレ「双方で小競り合いが起き、警察官が出動する場面も。緊張が高まる中、大統領選挙の商社はどちらになるのでしょうか。」"

VTR を受けて、スタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。

"小川彩佳「不青あんな高浮きも立ち込めています、スタジオにはアメリカ政治に詳しい東洋大学の横江公美教授に来て頂きました。どうぞよろしくお願い致します。」
横江公美（東洋大学教授）「よろしくお願い致します。」
小川彩佳「まずは大統領選の最新の情勢見ていきます、村瀬さん。」
村瀬健介「はい、大接戦となっています、アメリカの大統領選挙、情勢こちらにまとめました、赤色が共和党トランプ候補、青色が民主党のバイデン候補が勝利を確実とした州です。」
小川彩佳「こうして全体を見てみるとトランプ氏の赤に染まっているように見えますよね。」
村瀬健介「そうですね、ただアメリカの大統領選挙は各州に割り当てられました選挙人の数を競う形になっています、その選挙人の人数をですね、円の面積で表しますとこのようになります、大票田のカリフォルニア州は民主党バイデン候補、一方のテキサス州は共和党のトランプ候補と票を分け合っている形になっています、その結果、現時点ではですね、バイデン候補が選挙人 238 人、トランプ候補は 213 人と大接戦となっているんです。」"
"山本恵里伽「本当に僅差でどちらに軍配が上がるかわからない状態ですよね。」
村瀬健介「そうですね、現在このグレーで示されているのがまだ結果が出ていないところなんですけれども、こちら黄色になった 5 つの州はですねもともと激戦州と言われた州ですので、この勝敗が今後の注目点になると思われます。」
小川彩佳「この 5 つの州がどう転ぶかで今後の勝敗が決まっていくということになりますけれども、ここまでの展開をご覧になって横江さん率直にどうですか。」"

"横江公美「あの、最初世論調査っていうんですか、ここずっと選挙が始まってからの世論調査でずっとバイデンさんが強かったわけですよね。」
小川彩佳「有利でしたよね。」
横江公美「ですからもう、もしかしたら一瞬で青に変わるんではないか、というような声もあったと思うんですけれども、ここに来てやはりトランプさん、強さを見せた、って言いますか、やはりこの選挙はトランプさん対バイデンさんではなくて、トランプ対反トランプの戦い、やはり中心はトランプにあって、それからそのエネルギーは自分にあるんだということを、その最後のね、勝敗がどこかに行くかわからないですけれども、とにかくここで踏みとどまる強さを見せつけた感じはありますよね。」
小川彩佳「なるほど、今後どう向かっていくかわからないですけれども、今のこの状況をご覧になって 4 年前の反省を踏まえて世論調査もかなり精度を挙げてきているというふうにも言われていた、にもかかわらずこのような状況になっている、というのはどのように受け止めますか。」
横江公美「やはり隠れトランプがいたということになると思うんですよね、で、普通ですと現職の大統領になれば、どんどん隠れる必要はないんじゃないかっていうふうに思うじゃないですか。けれどもやはりトランプさんの政策って言いますのはかなりこの全員の人から多くの人から認められないものが多かったりしますよね。」
小川彩佳「はい。」
横江公美「それから言葉遣いがちょっと人種差別主義者に聞こえるとかそれから下品であったりしますよね、そうするとトランプさんの政策はいいんだけれども、トランプさんを支持していると言うと自分も人種主義、差別主義者に見えるんじゃないか。」
小川彩佳「うん、差別主義者に見えるのではないかと。」
横江公美「そう思ってやはりトランプ支持だと言えない人は実際に多かったと思います。」
小川彩佳「なるほど、そういったところが現れているのかも知れませんが、あの、大統領というのはそもそもどの票に決まっていくのか、これまでの流れですとこのような流れになります、従来はまず大手メディアが当選確実を報道します。そしてそれを受けて敗者が敗北を認め勝者に祝意を伝える、これ電話でなんですけれども、そして敗者が敗北宣言を行って、それを受けて勝者が勝利宣言、こうした流れが慣例となっていたんですが、今回の大統領選では両者が勝利宣言のようなことを行っているんですね、まず、これ日本時間の昼過ぎでしたけれども、バイデン候補が『私達は勝利に向かっている』と会見で述べました。で、その後にはトランプ大統領も会見で『はっきり言って我々はこの選挙で勝った』とこのように、まぁおふたりともですね、勝利に向かっているぞ、というふうにこうして宣言している。こういう展開になっているんです、これ横江さん異例のことですかね。」
横江公美「そうですよね、やはりその郵便投票が多くて、まだまだ数えられていない票がたくさんあるということが一番大きいと思いますけれども、勝者が決まらないということで、ふたりともまぁほぼほぼ勝利宣言を両方ともしている、ということになるんではないのかなと思います、と同時にね、これから場外戦に行くんだという宣戦布告をしましたよね。」
小川彩佳「お互いに対しての宣戦布告だと。」
横江公美「はい。」
小川彩佳「このような真意が込められているということですけれども、星さんいかがでしょうか。」"
"星浩「あの、異例中の異例なのはそのトランプさんはもう郵便投票のカウントはやめましょうと言っているし、

バイデンさんは最後の一票まで数えましょうと言っているわけですから二人の候補が全く違うことを言っている。まぁそういう意味では今回の大統領選挙の一つの主役は郵便投票ということだと思いますが、まぁこれはこれから票の集計だけではなくて、法廷闘争も含め、睨んだ二人の発言だと思いますね。」
小川彩佳「長引く可能性のある今回の大統領選ですけれども、今日の動きの中でインパクトが有ったのはなんと言ってもフロリダ州をトランプ大統領が制したということですね、注目の激戦州、接戦の末フロリダ州を制したのはトランプ大統領でした。」"

上記のやり取りを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられた。

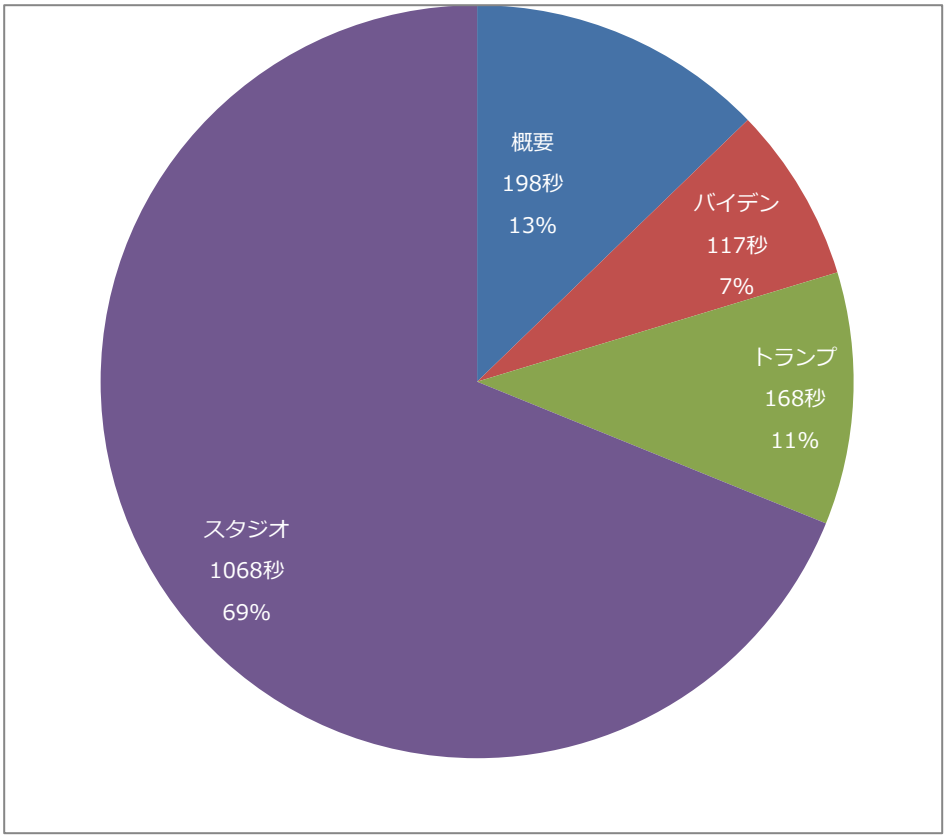
ナレ「得票率の差は僅か 3.4 ポイントでした。」
"トランプ大統領「且とは思ってなかった州、フロリダで勝利しました、単に勝つということではなく大勝しました。」
ナレ「注目されていた南部の激戦州フロリダを制したトランプ大統領、支持者も勝利にわきました。」
トランプ支持者「フロリダでトランプが勝ちました、そうなると思ってたけれどよかった。」
ナレ「トランプ氏がフロリダを訪れたのは今年だけで少なくとも 16 階、ここ一ヶ月で滞在したのは 7 日でした。フロリダは絶対に落とせない重要な州と位置づけていたのです。」
トランプ「我々はフロリダ州で勝ち、ホワイトハウスでの次の 4 年間を勝ち取るのだ。」"
ナレ「支持率の推移を見てみると、先月、一時 4 ポイント以上リードしていたバイデン氏でしたが、その後、トランプ氏が猛追、投票日前日には 0.9 ポイント差まで迫っていました。フロリダが注目されるのは激戦州の中で最も選挙人が多いことや 1996 年以降、フロリダを制した候補が大統領になっているためです。一方もう一つの激戦州、ペンシルベニア、こちらはまだ結果が出ていませんが、現在 10 ポイント以上の差でトランプ氏がリードしているということです。」
バイデン「トランプは荷物をまとめて家に帰る時が来た。」
ナレ「バイデン氏の出身地でもあり長年民主党が優勢だったペンシルベニア、しかし 4 年前、投票直前の調査では民主党のヒラリー・クリントンがリードしていましたが、その後、トランプ氏が逆転、大統領選での勝利につなげました。大統領選の行方を大きく左右する 6 つの激戦州、バイデン氏はアリゾナ州で勝利を確実としていてウィスコンシン州でも優勢、トランプ氏はノースカロライナ州やミシガン州、ペンシルベニア州で優勢が伝えられていますが、今後逆転する可能性のある州もあり、先が見通せません。」

VTR を受けて、スタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。

"小川彩佳「激戦州の一つ、フロリダはトランプ大統領が制したということになりますが、そのフロリダの世論調査はどうだったのか確認しておきますと、こちらです、最大で 8.4 ポイント、差があったんですが、それが投票日前日には 0.9 ポイント差まで迫っていたんですね、で、その勢いのままトランプ大統領がフロリダを制したということになります。まぁこれまでさんざん世論調査ではバイデン候補有利というふうに言われていましたけれども、これを覆して、トランプ大統領が勝ったというのは横江さんどうしたなんでしょうか。」
横江公美「もちろん隠れていた支持者がいたということですけれども、あの、トランプさんね今までのこの政権についてからの 4 年間というもの、本当にフロリダを執ることに必死だったと言ってもいいと思うんですね、特にここで注目できるのはこちらのユダヤ系アメリカ人だという風に言えると思うんですけれども、実際、前回の選挙のときにね、なんでフロリダが勝ったかって言うと、娘のイヴァンカの存在だと、で、イヴァンカさんって

いいますのは、そのユダヤ系アメリカ人のクシュナーさんと結婚していますよね、ですから、非常にね、親イスラエルの政策というのもトランプさんの政策の一つのシンボルのような形だと思うんですけれども、ここは完全にここにいるユダヤ系アメリカ人に対してのアピールになっているわけです、そこで裕福な高齢者の方が多いんですね、こちらに移り住んでくるというのがありますので、そこに対してですから減税パックですね、もうレーガン大統領の減税よりも大きい減税パックを決めたというふうに言っていますけれども、そこもフロリダにアピールするため、と。だからフロリダをとるために頑張った 4 年間でもあったと言えると思うです。」
小川彩佳「そして世論調査に現れなかったということはそうした方々が隠れていた。」
横江公美「言えなかったんでしょうね。」
小川彩佳「言えないんでしょうか。。」
横江公美「で、ユダヤ系アメリカ人というのは普通はね、民主党なんですよ、少数派ということになりますので、だから基本的にはいつものグループ、自分のいたところとは違う、思想とは違う、ということもあると思いますし、あの、そこにプラス、そこっていうのはキューバ系アメリカ人というのも多いですよね、あの近いじゃないですか。下から、はい、キューバ近いですから、来れますよね、で、キューバ系アメリカ人が多いと言うような場所ですから多様化していますよね、で、多様化に反対するようなトランプさんの物言いに対してやはりトランプさんを応援しているというのはいいにくい土地柄であるとは思います。」
小川彩佳「社会主義を敬遠してキューバから逃れたような方たちがフロリダに多くいるということも影響したということですけれども、世論調査にでているところでも見えてくるものがある、ここ、ちょっと動かしますね、この部分一回トランプ大統領の支持率が下がって、そしてまた上がるという展開を迎えるんですけれども、ここで何があったのかといいますと、トランプ大統領新型コロナに感染したのがこのあたりだったんですん、これが星さん、影響したというところも言えると。」"
"星浩「そうですね、フロリダとコロナの問題、意外と関係があると思うんです、あの退職後、フロリダで過ごしている人が多いので、トランプさんの最初のコロナ対策大丈夫かなというのが批判が多かったんで」
小川彩佳「多かったですね。」
星浩「それが世論調査に現れていると思いますが、その後、トランプさんが感染して回復したですよね、そうするとまぁそれが逆に安心感を与えたというのもありますし､それからフロリダは観光で成り立っていますのでね、いつまでもその規制規制で続くのは困ると、トランプさんは規制緩和を主張していますのでね、それもまぁ歓迎された一点もあると思いますね。」
小川彩佳「うーん、そうしたことがフロリダ州制するということを押し上げていった、と。これトランプ大統領、フロリダ州を獲得できたというのは非常に大きいですよね。」
横江公美「ここで負けたらトランプさん、勝てないですからね、で、前回 1%も差がなかったんですけれども、今回もう 3%ぐらい差をとっていますのでここは嬉しいと思います。」
小川彩佳「一方でバイデン候補にとっては非常に、星さんショックが大きいということになりますね。」
星浩「そうですね、フロリダには相当力を入れていましたから、ただトランプさんの勢い、後半強かったのでちょっとこれはダメかなというのは陣営にもあったようです。トランプさんからするとフロリダで負けたら元も子もないわけですから必死でやったというのはまぁ最終的には 3%という大きい差になって現れたということだと思いますよね。」"

"小川彩佳「そして気になるのは勝敗を左右する残り 7 州の結果ということになりますけれども、どちらが取るのか、横江さんはどうご覧になりますか。」
横江公美「あの、まぁトランプさん勝ちたいと思いますね、あの最後の選挙の時ね、半分泣きそうになっているんですよ。みんなが『ウィーラブユー、愛してる、愛してる、愛してる』って言ったら、『俺を泣かせないでくれ』なんて発言をしているんですよね、もう、そう考えるとなんとかして本人は勝ちたいんだろうなというふうに思います。で、その気合がね、届くか届かないか、というところがまぁ結果につながると思うんですけれども、とにかくですね、今、ミシガン、ペンシルベニア、ウィスコンシン、ノースカロライナ、ジョージア、こちら右側ですねこの 5 つのうちの 4 つを取らないといけないので、ですから今日は今のところは勝っているんですね、4 つ、ですから郵便で負けてしまうっていうのは許せないというのが今のトランプさんの気持ちだと思います。」
小川彩佳「今後星さん、郵便投票の結果というのが集計で出てきますね。」
星浩「そうなんですよ、向こう時間の朝ですけれども、郵便投票が続々開票し初めてですね、今入ってきている情報ですけれどもどうやらウィスコンシンとミシガンではバイデン氏が逆転してトランプさんを追い抜いたということですので、どうやらこの郵便投票がどんどん進む中でバイデンさんは票を上乗せしてもしかしたらバイデンさんは近々過半数の 270 に達するという可能性も出てきたということですね、」"
"小川彩佳「横江さん、赤い蜃気楼というふうにも言われますけれども、これが取り払われることになるのか、これから。」
横江公美「うーん、はっきり言って、わからないです、もう。楽しみに見ています。」
小川彩佳「朝を迎えましたので、現地も続々と最新情報が入ってくると思います。最新の情報また入りましたら、改めてお伝えしてまいります、横江さんどうもありがとうございました。」"
　他のトピックをはさみ、番組のクロージングで以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。
"小川彩佳「ここで再びアメリカ大統領線の最新情報をお伝えします、首都ワシントンから中継です、岩田さん。」
岩田夏弥「はい、トランプ大統領はまだ開票されていない郵便投票について最高裁判所に対して、その開票を止めるように求めるという考えを示していたわけですが、各地では今日も開票が進んでいます。米メディアによりますと、中西部ウィスコンシン州では黒人男性が白人の警官に背後から 7 発の銃撃を受けて重体となった事件が起きたケノーシャで開票結果が出たと伝えています、バイデン氏の票がトランプ氏を上回ったということでウィスコンシンでは現在、開票率は 95%、バイデン氏がトランプ氏を 2 万票あまりリードしています、有権者がルールに則って投じた一票をトランプ大統領の考え通り、一切なかったことにして問題ないのかどうなのか、アメリカ大統領選挙の開票、時間はまだかかるかも知れませんが、淡々と進んでいます。」"
"小川彩佳「ウィスコンシン州では現在開票率は 95%でバイデン氏が優勢となっているということですけれども、他の激戦州では。」
星浩「そうですね、お隣のミシガンでもバイデンさんがトランプさんに追いついて追い越したという情報が今入ってきているところですね。」
小川彩佳「わからない状況が続いているということになります。」"
　このトピックについては当てられた時間は 1551 秒で、時間配分および比率は以下の通りだった。



放送法上は特に問題は見られなかった。

・日本学術会議：結論→他の放送日との合わせての判断が必要

山本キャスターの「続いては国会です、衆議院の予算委員会では日本学術会議をめぐる問題などについて今日も論戦が行われました、菅総理は決裁を行う前にこちら、杉田官房副長官から会員候補 6 人を外すことについて説明を受けていたことを明らかにしました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

ナレ「今日の国会、日本学術会議との引き合いに出されたのはアベノマスクでした。」

辻元清美（立憲民主党副代表）「アベノマスクに 260 億円使ったんでしょ。学術会議 10 億円の 26 年分ですよまのマスク 2 枚に、人件費をちまちま削る、それが政治のやることですか。総理。」

（CM）

ナレ「衆議院で行われた国会論戦、菅総理は日本学術会議について今日も k のフレーズを繰り返しました。」

菅総理「度々申し上げていますけれども年間 10 億円の予算を使って活動している政府の機関です。」

ナレ「現在、政府は学術会議の組織の見直しを進めていますが、野党からはこんなツッコミが。」

"辻元清美「アベノマスクに 260 億円使ったんでしょ、学術会議 10 億円の 26 年分ですよ、あのマスク二枚に、こっちの方をですね、なんでそんな事が起こったのかを検証する、安倍内閣の失敗を、そっちをしていただくのであって、人件費をちまちま削る、それが政治のやることですか、総理。」

菅総理「今、行革担当大臣のところで、精査していると思います。」"

ナレ「今回、菅総理が任命を拒否したのはこちらの 6 人、菅総理はこのうち 5 人について名前も業績も知らないと答弁しました。知っていたのは一人、加藤陽子教授だけだったということです。ここで疑問が浮かびます。名前も業績も知らない候補者をどうして除外することができたのでしょうか、そこには総理に 6 人について報告してきた人物がいるはずです。」

"辻元清美「99 人の名簿を決裁、判子を押しているんですよ、このときに 6 人はちょっと今回は任命できないという話は聞きましたか。」

菅総理「もともとこの、」

辻元清美「いや、聞いたか聞いていないかだけだから。」

菅総理「あの、99 人の名簿が出てきて、そこで印鑑を押して、参考資料としてはつけてきましたけれど見ていません。」

辻元清美「それではですね、この 6 名が任命から外されたというのはいつ知っったんですか、その後ですか。これ総理しかわからないよ、総理の記憶だから。」

菅総理「ちょっとお待ち下さい、具体的に申し上げます。」

辻元清美「思い出してください、これハンコついたでしょ。」

菅総理「ちょっと」"

ナレ「このあと、菅総理は決裁前に 6 人について報告を受けていた、と答弁を修正しました。」

"辻元清美「決裁しちゃったけど、その後大騒ぎになりましたよ、それであぁこういう 6 人が外されていたのかと、まぁそおときにお知りになったと言うことでよろしいですね。」

金田勝年（委員長）「具体的事実だからしっかり答えてもらいます。菅内閣総理大臣」

菅総理「私がその、99 名の決裁をする前です、」

辻元清美「えっ」

金田勝年「辻元清美くん」

辻元清美「誰から聞きましたか。誰から聞いたの、総理ですよ、ちょっと総理ですよ」

菅総理「多分、杉田副長官だと思います。」"

ナレ「これまで、複数の関係者の話で任命見送りに杉田官房副長官が関与していたことは明らかになっていましたが、菅総理が国会で認めたのは初めてです、野党側は改めて過ぎた氏の国会招致を求めました。」

"辻元清美「委員長、今度こそ呼んでくださいよ、杉田さんを、いかがですか。委員長」

金田勝年「理事会で」

辻元清美「委員長に言っているんですよ、今は。」

金田勝年「理事会で協議をさせて頂きます。」"

　VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。

"小川彩佳「日本学術会議の問題、任命を拒否した 6 人について報告をしてきたのは杉田副長官だと、まぁ菅総理、事実関係認めましたけれども。」

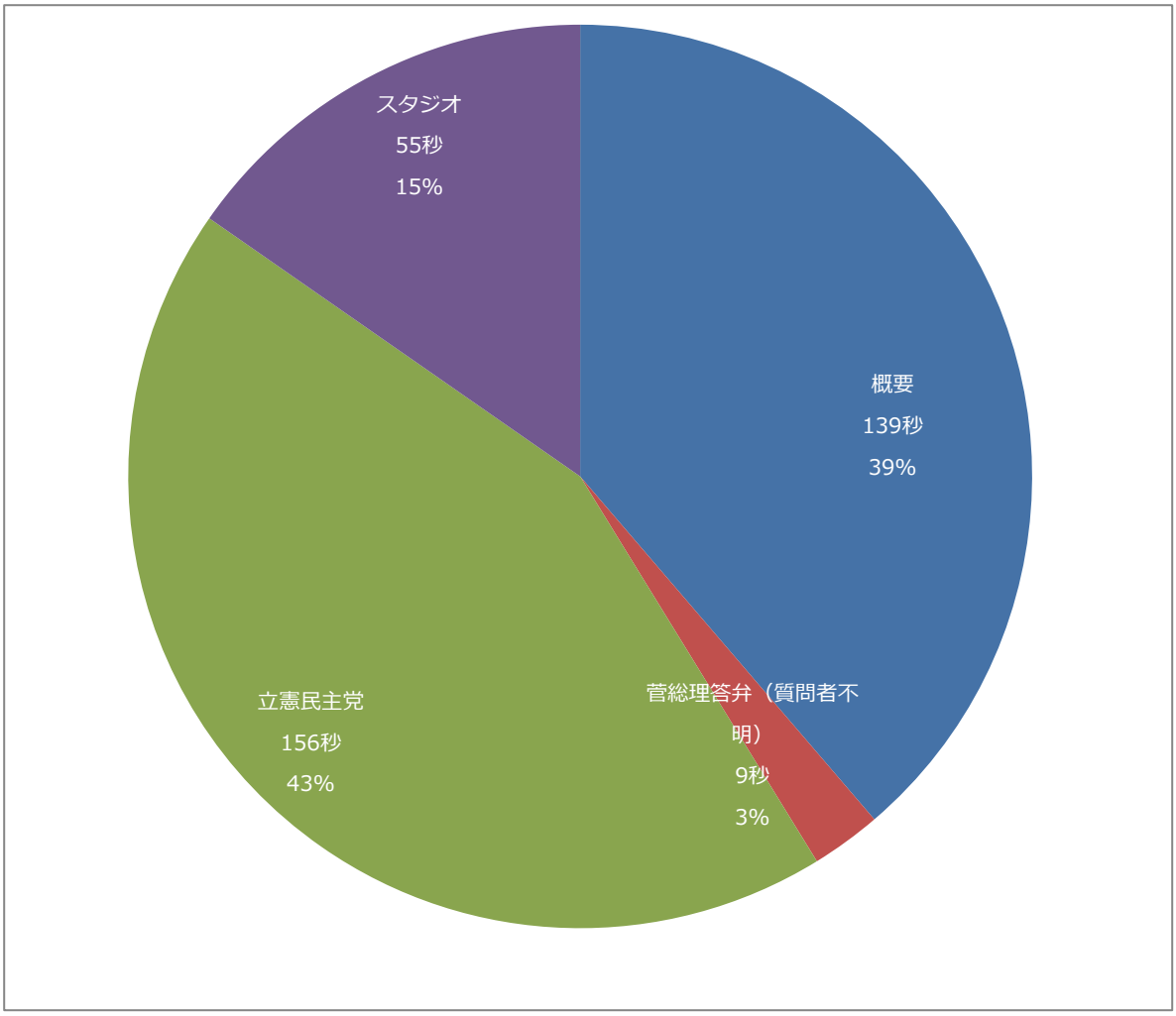
星浩「そうですね。」

小川彩佳「やはり鍵は杉田副長官だと。」

星浩「辻元さんの厳しい追求についに杉田さんの名前を出したということですね。」

小川彩佳「そうですね。」
星浩「まぁただ、杉田さんがどういう理由でこの 6 人を外したか、どういう経緯で外したのかというのは、今日の菅さんの答弁にはなかったんですね、ここはその菅さんもいずれ喋ってもらいたいと思いますが、やっぱり基本的に全体の経緯を菅さん自身が整理をして話をしてもらいたいと思うのですが、もし菅さんがそれができないのなら、やはり杉田さん自身に国会に出てきてもらって経緯を説明してもらうしかないですよね、杉田さんというのはもう官僚のトップですからやっぱり国会への説明責任というのを率先して果たすべきだと思いますね。」"

このトピックについて当てられた時間は 359 秒で時間配分及び比率は以下の通りであった。



このトピックについては他の放送日との合わせての評価が必要と考えられる。

・アメリカが台湾に無人機 4 期を売却：結論→特に問題なし

山本キャスターの「アメリカが台湾へ無人機 4 機の売却を承認しました。中国は強く反発しています。」とのコメントを受けて VTR が取り上げられるとともにナレーションによって「台湾との関係を深めるアメリカと中国の緊張関係が続く中、アメリカ国務省は 3 日、台湾に対しアメリカ製無人機 4 機の売却を承認したと発表しました。これに対し中国外務省は『アメリカは重大で誤ったメッセージを台湾に送ったとして必要な法的措置をと

る』と反発しています。アメリカは先月 22 日にも台湾に対しミサイルなど日本円にしておよそ 1900 億円の武器を売却することを決め、中国への圧力を強めています。」とのことが伝えられていた。

　このトピックについて当てられた時間は 48 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・楽天が携帯乗り換えの手数料を 0 円に：結論→特に問題なし

　楽天の携帯乗り換えについて以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"三木谷浩史（楽天社長）「楽天モバイルなら乗り換えも 0 円ということで入るのも 0 円、出るのも 0 円。」

ナレ「楽天モバイルではこれまで契約時の事務手数料と携帯会社を乗り換える際の番号継続精度の手数料、それぞれ 3000 円を請求していました、これを今日から無料にします、乗り換え時の手数料を巡っては総務省が原則無料にすべきとしたガイドラインを示していて、それに対応する形にしたものです。また、スマートフォンで運転免許証と顔を撮影するだけで本人確認が完了するシステムも発表されました。新規契約の手続がオンラインで完結できるようになるということで今月中に開始する予定です。」"

　このトピックについて当てられた時間は 41 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

　特に問題なし

検証者所感

　特になし

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2020 年 11 月 5 日

出演者：星浩、小川彩佳、村瀬健介、山本恵里伽、石井大裕
パトリック・ハーラン

検証テーマ：アメリカ大統領選挙、年末年始の分散休暇、コロナと五輪、学術会議をめぐる内閣府の記録
核兵器禁止条約、中央道またぐ橋で不良工事が発覚、学術会議をめぐる法解釈

報道トピック一覧

・アメリカ大統領選挙
・イギリス南部でロックダウン
・新型コロナの感染者が 76 日ぶりに 1000 人超え
・年末年始の分散休暇
・コロナと五輪
・学術会議をめぐる内閣府の記録
・核兵器禁止条約
・中央道またぐ橋で不良工事が発覚
・東京墨田区で親子がタンクローリーに巻き込まれる
・香川県で 3 年ぶりに鳥インフルエンザ
・スポーツ報道
・学術会議をめぐる法解釈
・天気予報

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

・アメリカ大統領選挙：結論→特に問題なし

アメリカ大統領選挙についてスタジオで以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"小川彩佳「アメリカ大統領選、まだ結果が出ていません、大接戦となっています、今日もパックンことパトリック・ハーランさんとともにお伝えしてまいります、どうぞよろしくお願い致します。」

パトリック・ハーラン「おねがいします、」

小川彩佳「ここまで、いかがですか、」

パトリック・ハーラン「いや、この二日間で緊張しすぎて、多分寿命が 10 年くらい縮まったかと思いますね。」

小川彩佳「10 年くらい縮まりましたか？」

パトリック・ハーラン「はい。」

小川彩佳「いや、しびれる展開ですからね。」

パトリック・ハーラン「もう本当に緊張しています。」

小川彩佳「生きてくださいね、長生きしてください。」

パトリック・ハーラン「がんばります。番組最後まで生きます。」

小川彩佳「さて、開票から 2 日が経ちましたけれども民主党のバイデン氏が獲得している選挙人の数で過半数、本当に目前ですね、僅かな隙間しかありません、王手をかけているという状況です、一方でトランプ大統領は差

を大きくつけられていまして、今の所崖っぷちという様相を呈しているんですけれども、昨日の夜以降の動き、ちょっと振り返ってみます。24 時間前、昨日の NEWS23 の時点ではこうでした、トランプ大統領、勢いを見せていましたよね、このまま行くのでは中というふうに思われたのですが、北部のウィスコンシン州とミシガン州でバイデン氏が立て続けに勝ち取った、当確となったことで、一気に戦況人の数を伸ばしまして、こちら、264 人と、過半数まであと僅か 6 人というところまで迫っているんです。」

パトリック・ハーラン「ギリッギリですね。」

小川彩佳「本当にギリギリの戦いになっているんですけれども、まぁこうしたウィスコンシンだったりですとかミシガンといった州ではまぁ当初トランプ大統領、優勢に見えたんですけれども、開票が進むについてれバイデン氏が急激に票を伸ばして迫ってきたと、いう。そういう状況だったんですよね。この鍵を握ったのはやはり郵便投票でした。」"

　やり取りを受けて以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

ナレ「開票作業が進むにつれてアメリカ国内では混乱が深まっています、ホワイトハウス周辺では女性 1 人と男性 2 人が刺される事件が発生しました。3 人はトランプ大統領を支持する極右組織のメンバーを自称、人種差別に反対するデモの参加者に刺されたと主張していると言います。開票所にはトランプ支持者が詰めかけ。」

トランプ支持者「開票をやめろ！開票をやめろ！」

ナレ「不正があるとして集計中止を訴える事態も。一方のバイデン支持者は。」

バイデン支持者「全ての票を集計せよ！」

ナレ「全ての票を集計するよう訴えるデモが各地で起きています。このような事態を引き起こしたのは郵便投票を巡る混乱です、当初はトランプ氏が優勢でしたが郵便投票の開票が進むにつれてバイデン氏が逆転をするいわゆる赤い蜃気楼が起きたのです。トランプ大統領は Twitter で。」

トランプ大統領（Twitter）「昨夜、多くの州で私がリードしていたのに、リードが魔法のように消え始めた。」"

ナレ「バイデン氏の票が急増した地域の一つがラストベルトと呼ばれる衰退した工業地帯。ウィスコンシン、ミシガン、ペンシルベニアといった、両陣営が力を入れていた激戦州です。」

トランプ「この選挙は私の力強く美しい経済再生かバイデン恐慌のどちらかの選択だ。」

ナレ「ラストベルトは長年民主党が優勢でした、しかし前回の大統領選ではトランプ氏が民主党の支持地盤を奪い、政権交代を成し遂げたのです。」

"トランプ「ペンシルベニアで勝てれば全米で勝てる。」

ナレ「トランプ氏は 10 月以降 45 回行った大規模集会のうち、実にその半数に迫る 21 回をウィスコンシン、ミシガン、ペンシルベニアの 3 つの州で行いました。一方のバイデン氏は選挙戦最終日にペンシルベニア州の三ヶ所を回り、支持固め。」

バイデン氏「明日は新しい日の始まりです。塗り重ねられたうそではなく、私達は真実を選ぶ。」"

"ナレ「そして迎えた投開票日、当初得票率でリードしていたのはトランプ氏でした。」

トランプ「いちばん重要なのはペンシルベニアを大差で勝利しつつあるということだ。我々がミシガンで勝利しつつある、ウィスコンシンも勝利しつつある。」"

ナレ「しかし郵便投票の開票が進むと情勢が一転します、バイデン氏の得票数が急激に伸び、ミシガンとウィスコンシンの 2 つの州でトランプ氏を逆転、赤い蜃気楼は現実のものとなりました。"勝利に必要な選挙人はあと 6

人、過半数に王手をかけたバイデン氏は。」
バイデン「全ての開票が終われば我々が勝利すると確信している。我々が大統領選勝利のために必要な 270 人の選挙人を獲得するのに十分な数の州で勝っているのは明らかだ。」"
ナレ「これまでにバイデン氏の得票数は 7000 万票を超え、大統領選史上、最多。更に増えるのは確実です。」
バイデン「全ての票は集計されなければならない。この勝利は私だけのものではなく、また私たちだけの勝利でもない。国民のため、アメリカの民主主義のための勝利である。」
　VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。
"小川彩佳「さぁ、激戦のウィスコンシン州、そしてミシガン州をバイデン氏が抑えるということになりましたけれど、昨日トランプ大統領は会見の中で勝利宣言のようなことをしていましたよね。」
パトリック・ハーラン「そうなんですよ、まだ数えている最中なのに、ペンシルベニアも勝ちました、ミシガンも勝ちました、ウィスコンシンも勝ちました。」
小川彩佳「モノマネ。」
パトリック・ハーラン「ジョージアも勝ちました、と言ったりしてましたけれども、そこで異例なことが起きました。」
小川彩佳「はい。」
パトリック・ハーラン「生中継で放送していました NBC のキャスターが割り込みました。」
小川彩佳「はぁ、」
パトリック・ハーラン「『ただいま、大統領は現実と異なる発言をしました。訂正します』と言って、なんでこういう激戦州、まだ本人のものではないのか、勝利してないのか、という解説に入ったのです。まぁこれは本当に見たことのない、大統領の中継に割り込んで、うそを正すという大変カッコ悪い展開になりましたね。」
小川彩佳「会見の途中で慌ててこう割り込んだんですよね。」
パトリック・ハーラン「そうなんです、でもなんでそこまでやるのかと言いますと、不正な選挙だとトランプ大統領が言いまして、その支持者が信じてしまうと、選挙結果を受け入れないで下手したら乱暴なこともやってしまう可能性もある、とそういう危機意識を持って、そういう異例な行動に出たと思います。」
小川彩佳「うーん、暴動に発展する可能性がある。」
パトリック・ハーラン「そう、それを止めるべく、嘘を正しました。」"
"小川彩佳「そのあたりの緊張感も伝わってきますけれども、さてあと 6 人で過半数に達するバイデン候補非常に王手という状況になっているんですけれども、こちらネバダ州、ペンシルベニア州、ノースカロライナ州、ジョージア州、いずれも選挙人 6 人以上ですのでこのどれか一つでもバイデン氏が制すれば過半数に達するということになります、それは同時にトランプ大統領の敗北を意味することにはなるんですけれども。」
パトリック・ハーラン「間違いないです、どれも今、接戦状態です、」
小川彩佳「そうですね、その接戦状態、実際に見てみましょうか。現在の最新の開票状況なんですけれどもネバダ州、開票率 75%ですがバイデン氏が 0.64 ポイントリードしていますね、こちらのネバダ州では日本時間の午前 2 時に結果が発表されるという情報も出ています、もうすぐということになります、そしてペンシルベニア州、ノースカロライナ州、ジョージア州はいずれも僅かですけれどもトランプ大統領がリードしているという状況ではありますが、いずれも大接戦となっていますね。」

パトリック・ハーラン「未開票の票は主に都市部のもの、そして郵便投票で届いたものなので、おそらく民主党の票が多いというふうに思われまして、まぁトランプ大統領にとっては背水の陣、一箇所でも落としたら希望がありません、ですから徹底的に戦う予定なんですよね、裁判を起こし、例えばこのペンシルベニア州の開票作業を止めようとしています。あの票は無効です、となるべく数える票を減らそうとしています、また各地でその法廷闘争に持ち込む予定でもありますけれど､万が一このウィスコンシン州の再集計を要求する可能性もあります。何があっても徹底的に戦う姿勢を示しています。」

小川彩佳「徹底的に戦う、と、トランプ氏の陣営は選挙に不正があるというふうに訴えていまして、根拠不明の法廷闘争に踏み込んでいる、という状況です。こちら VTR を御覧ください。あ、失礼いたしました、そしてこの中で最も注目なのがこちらですねジョージア州、選挙人 16 人開票率 98%もうすぐで開くということになりますけれども、こちら 18098 票差でトランプ氏がリードしているというまぁ非常にこちら接戦ですよね。」

パトリック・ハーラン「1 万票以上ですけど、この残り 2%で十分ひっくり返せる数字なんですね、で皆さんこのジョージア州ってどういうところなのか、思い出してみてください、アトランタオリンピックで有森選手が活躍しましたね、あのジョージア州ですが実は 92 年以来ずっと真っ赤な共和党の牙城として知られて来ました、しかし今回は赤からパープルに少し青くかかってきましたね、その理由がこちらです、まずは投票数がこんなに増えました。80 万票も新しく投票した方が増えていますが、その新規有権者登録は若い方、多様な人種という傾向が見られまして、前はまぁ主に白人に固められていた州が少し多様性になってきました、で、それは主にこの方のおかげだというふうにアメリカで言われています。」

小川彩佳「はい。」"

"パトリック・ハーラン「これ、ステイシー・エイブラムスと言われまして、州知事の選挙でぎりぎり負けた方なんです、その後で国政に躍り出るんじゃないか、というふうに思われていましたけれども、いや、地元に居座って、居座って、って残って、新しい有権者をどんどん登録させよう、そういう運動を起こし、80 万票の新規投票はこの方のおかげでもあるというふうに言われています。もしかしたらバイデン氏が今回ジョージア州を取ったら、このステイシー・エイブラムスがそれこそバイデン政権に入るのではないかと是非注目していただきたいと思います。」

小川彩佳「立役者になったというエイブラムスですね、そして先程失礼いたしました、VTR なんですけれども、法廷闘争にトランプ氏が踏み込んでいます、こちらご覧ください。」"

　やり取りを受けて以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"ナレ「まもなく情勢が明らかになる見通しの激戦州、ネバタ。」

記者「現時点でどのくらい集計が残っている？」

ネバタ州クラーク郡担当者「まだ数字は言えない。」

ナレ「当局の会見中に突然､」

アメリカ人男性 A「泥棒バイデン一家が選挙で不正をしている、メディアはそれを隠している」

ナレ「乱入した男はバイデン氏の陣営が選挙で不正を働いていると叫び、去っていきました。」

ネバタ州クラーク郡担当者「何の話でしたっけ？」"

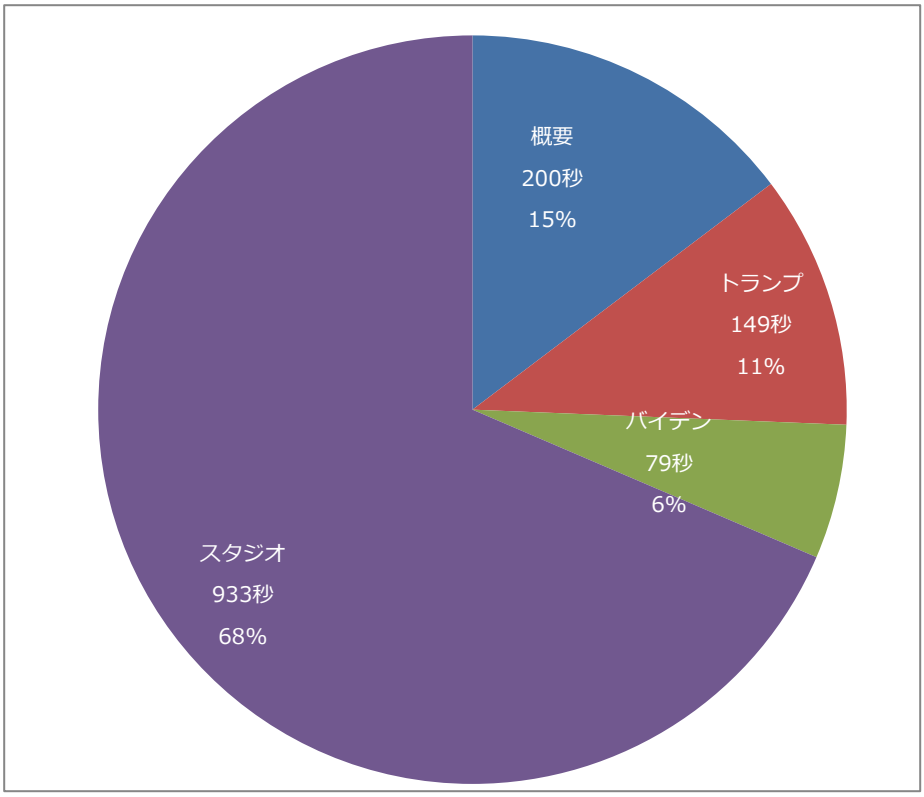
ナレ「ネバタ州ラスベガスの開票所の前にはトランプ氏の支持者が集まりました、中には銃を持った人も。

ネバタ州では混乱を避けるためとして開票率 75%の時点で開票速報が中断されていますが､これが返って混乱を

招いています。」
"トランプ支持者「ここにいるのは東京に秘密のままは良くないと知らせるため。私達は何が起きているのか、本当の数を知りたいんです。
ナレ「トランプ氏の支持者は不正が行われているのではないか、と開票所の中を見せるよう求めているのです。」
"トランプ大統領「最高裁判所に行く、全ての開票をやめてもらいたい。」
ナレ「昨日、最高裁判所に対して投票日の翌朝以降の開票を止めるよう求める、と発言したトランプ大統領。"
開票が進む郵便投票はバイデン氏の支持者が多く利用しているとされています。
"トランプ陣営は激戦州のミシガン、ペンシルベニア、ジョージアで集計をやめるよう訴訟を起こしました。」
ジュリアーニ氏（トランプ氏の弁護士）「我々が勝利します、公平に票を数えれば勝利している。」
ナレ「トランプ陣営は法廷闘争に持ち込んで当選を勝ち取る戦略ですが、果たして今後の展開は。」"
　VTR を受けてスタジオでは以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられていた。
"小川彩佳「ここで中継です、ホワイトハウス前にいる岩田記者に聞きます。岩田さん、トランプ大統領、法廷闘争に踏み込みましたけれど、このところ一向に姿を見せていません、なにか理由があるのでしょうか。」
岩田夏弥「そうですね、トランプ大統領 4 日の未明に支持者の前で演説をして以来姿を見せていません。ワシントンは現在 5 日の朝なんですけれども､ホワイトハウスは今日もトランプ氏の日程は特にないと発表しています、最大の理由は何なのか、と考えますと、大統領選挙が終わった今、カメラの前に出てきてアピールしても票は一票も増えないからだと思います。トランプ氏はこれまで何をするにしても、再選に向けてプラスになるのかならないのかを最大の判断基準にしてきたように見えました。今、何をしてももはや得票数が変わらないとなると姿を見せる意味がない、ということだと思います。」
小川彩佳「一方であの訴訟に向けてはトランプ大統領準備を重ねてきたとは思うんですけれども懐事情はどうなんでしょうか。」
岩田夏弥「そうですね、トランプ陣営、支持者に対して今、寄付を求めています、陣営のホームページご覧頂きたいんですが、左上にあるタイトルはですね､『公式選挙防衛基金』となっています、そして下の方では『民主党はこの選挙を盗もうとしている、あなたが見たことがない詐欺がある』と民主党を攻撃した上で『選挙結果を守り戦い続けるためにあなたの助けが必要だ』として訴訟費用を賄うための寄付を呼びかけているのです、トランプ陣営は選挙戦で使った広告費もバイデン陣営を下回っていまして、実はそれほどお金に余裕があるわけでもなさそうです、訴訟を乱発すれば組織の体力にも影響を及ぼしそうです。」"
"小川彩佳「厳しい事情が浮かび上がってきています、さてここまでの動き、村瀬さん、山本さんにスタジオで伝えてもらいます、お願いします。」
村瀬健介「トランプ大統領、一夜明けましてリードが魔法のように消えてしまったとツイートしたわけですけど、その後も真偽がよくわからない投稿を続けています。例えばこちら『彼らはペンシルベニア州で 50 万票あったさを一刻も早く消すために動いている』ですとか､『密かに捨てられている投票用紙が多数あったとのことだ』という根拠の全くわからない投稿をしているのです、これに対して Twitter 社は誤解を与える恐れがあるとして警告を一部の投稿に対してつける異例の事態になっているのです。」
山本恵里伽「その上でトランプ大統領は開票作業について訴訟や再集計を求める動きを見せているんですね、詳しく見てみますとまず、バイデン氏が接戦の末制しましたミシガン州、そしてトランプ氏自身が僅差でリードし

ているペンシルベニア州とジョージア州、またバイデン氏が僅差でリードしていますネバダ州で集計の停止を求めて提訴しているんです、ただネバダ州では州の最高裁がこれを拒否しました。さらにはアリゾナ州でも提訴を検討しているという報道があります、そしてウィスコンシン州であれば得票率の差が 1%以下であれば再集計を求めることができるんですが、これも行う方針だということです。」"
"小川彩佳「パックン、この動きどうご覧になりますか。」
パトリック・ハーラン「まぁ実は選挙前からこうしますよと発表していますから」
小川彩佳「そうですよね。」
パトリック・ハーラン「筋書き通りに動いているというふうに見られます、大事なのは支持者、または共和党の重鎮、それにフォックス・ニュースなど保守派メディアはどう反応するのか、どこまで支えるのか、もうそろそろ敗北宣言しませんか、とどっかで当確に向けて促し始めたらそこが注目ポイントなんです、ここまではまぁ激戦州がまだでていないので戦い続けるのは当たり前です。」
小川彩佳「うーん、少しずつそのバックアップが外れてくる可能性があると。」
パトリック・ハーラン「はい、あのこの後、ジョージア州が発表され、ネバダ州が今日あと 3 時間くらいで発表されますので、それを受けてどうなるのか、やっぱり目が離せない、刻一刻と情勢が動いている状況です。」
小川彩佳「うーん、星さん、予想されていた流れではありましたけれど、長期化の様相を呈していますね。」
星浩「そうですね、ただトランプ陣営からするとこの裁判に訴えるしかもう手がないということだとおもうんですね、でそれからまぁこれからいろんなスケジュールが予定されているんですが、12 月 14 日に今回の選挙人による投票で選挙結果が確定するんですけど、できればそれまでに最高裁の判決でひっくり返したいという狙いなんでしょうが、まぁどうもそれは無理だという状況なんですね、で一方バイデン陣営を見てみますとね、その政権移行チームというのを作りまして、ここで色々とその政策だとか次の政権の人事なんかも固めていくんですね、そうするとね、だんだん世の中がバイデン政権の方に動いてくる、既成事実化していこうという作戦ですので、どうやらその動きのほうがトランプ陣営の動きを上回るという気配ですよね。」"
"小川彩佳「なるほど、既に政権移行サイトも立ち上がっていましたけれども、これでバイデン新大統領が誕生するのかという流れになっていくのかどうか、そうなった場合、非常に気になりますのは、やっぱりニッポン、どういう影響を受けるのかというところですが、特に中国への向き合いというところがね、非常に注目ですよね。」
パトリック・ハーラン「そうですね、日本の皆さんは中国に対して強い姿勢を見せてきたトランプ大統領、支持している方多いと思うんです。えぇ、しかしですね、思っているよりもバイデン氏も中国に対しては強い姿勢をここまで選挙中の活動中、集会とか演説でのお話では見せています、恐慌な姿勢はあんまり変わらないと思います、何が変わるかと言いますと、アメリカファースト、アメリカアローンではなく、仲間を引き入れて同盟国との関係を強めて、そのみんなの力を借りて中国を牽制する、まぁ国際協調姿勢という新しいわけではないんですけれども、本来のアメリカの姿にアメリカの外交に切り替わるというか戻すというふうに僕は見ています。」
小川彩佳「これまでも TPP だったりとか、イラン核合意から離脱するという多国間の合意から離脱するという動きを見せてきましたけれども、そういったところでも星さん変わってくると。」"
"星浩「あの、バイデンさんは就任する日にパリ協定に復帰すると言っていますし、その金正恩委員長に対して独裁者とは交渉しないと言っていますし、世界情勢色々変わってくるんでしょうね、そのバイデン陣営のスタッフもサリバンさんだとかフロノイさんだとか名前がもう上がっているくらいですので。それから日本ですけれども、

安倍総理はトランプさんのときは早めに行って抱きつき戦略をやったんですけれども、アメリカ頼みというだけでは、仮にバイデン政権になれば、日本はそれだけでは済まないので、日本独自の外交戦略というのが益々必要になると思いますね。」
小川彩佳「日本にとっても岐路だということになりますね。」
パトリック・ハーラン「そうですね、まぁアメリカと仲良くするには、この先は損することはないと思うので、ぜひよろしくお願いします。」
小川彩佳「よろしくおねがいします。さて大統領選の流れについてまた新しい情報が入り次第お伝えします。」"
　他のトピックなどをはさみ、番組のクロージングでは以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。
"（パックン、パソコンを落としかける）
小川彩佳「パックン、大丈夫ですか。」
パトリック・ハーラン「あの、動揺しております、今、自分のパソコンを落とすくらいびっくりしたんですけれども、トランプ大統領が先程ですね、今の選挙の情勢を受けて、大事なツイートをしました、ジョー・バイデンが""Every vote must be counted""全ての票を数えるべき、やっぱり民意は確認すべきだと言っているところを、ドナルド・トランプは正反対""STOP THE COUNT!""、集計をやめろ、って言っています、まぁ集計をやめれば今の情勢だとぎりぎり勝っている自分が当選するという見込みなんですけれども、そのやっぱり権限もないし、おそらくあのフォックス・ニュースなどの保守系のメディアも、この声を広げて呼びかけることもないと思うんですね、。」
小川彩佳「このツイッター上でも牽制しあっているという両候補ですね。」
パトリック・ハーラン「そうですね、これがそのまま法廷闘争に持ち込まれる争いなんですね、果たして裁判官はどう決めるのか、もしかしたらその、裁判自体を取り上げない、拒否する可能性もありますね。」
小川彩佳「どう決着していくんですかね。」
パトリック・ハーラン「まだまだわかりません。」"
　このトピックについて当てられた時間は 1361 秒で時間配分および比率は以下の通りであった。



放送法上は特に問題は見られなかった。

・年末年始の分散休暇：結論→特に問題なし

年末年始の分散休暇について以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"ナレ「今日開かれた全国知事会では」

平井伸治（鳥取県知事）「帰省や旅行の分散ができないでしょうか、ご協力いただけませんか。」

ナレ「感染拡大を防ぐため年末年始の帰省や旅行の分散を呼びかけることなどが話し合われました。年末年始休暇の分散について街の人は。」"

"女性 A「いいんじゃないですか、なんか選択肢が広がったほうが、私は別にそれでなにかずるいとかそういうのは思わないです。」

男性 B「逆に分散したほうが人混みとかそういうのも避けられると思うので分散取得ができるのならそういうほうがいいかなと思います。」"

このトピックについて当てられた時間は 46 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・コロナと五輪：結論→特に問題なし

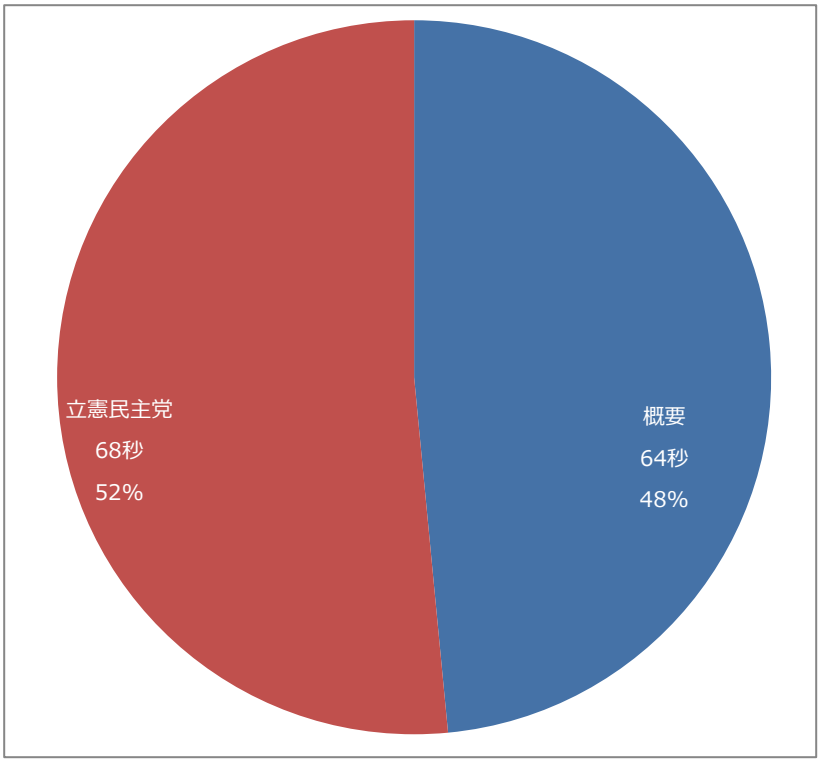
コロナと五輪についてスタジオで以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。

小川彩佳「新型コロナの感染がヨーロッパで急拡大して、また日本でもジワリ増えているという傾向が見えてきていますけれども、ここでやはり気になるのは来年のオリンピックへの影響ですよね、」

星浩「そうなんですよ、政府の関係者に聞いてみますとヨーロッパの感染拡大によってですね、日本側とヨーロ

ッパ各国とか日本側と IOC との打ち合わせが延期になったりしているというケースが続いているんですね、それから関係者がこんな事も言っていまして、その IOC というのはヨーロッパの影響が非常に強いんですね、それで感染拡大によって東京開催に懸念が IOC の中でも広がっているというんですね、さらに日本の感染に対しても各国からその感染対策大丈夫ですかという問い合わせも来ていまして、どうやらこの感染拡大オリンピックにちょっとした影を落とし始めているという状況ですね。」
小川彩佳「心配な状況になってきましたね。」"
　このトピックについて当てられた時間は 34 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・学術会議をめぐる内閣府の記録：結論→他の放送日との合わせての判断が必要
　山本キャスターの「日本学術会議の任命拒否をめぐる問題。6 人を除外することを菅総理に報告した杉田官房副長官と内閣府が事前に協議した際の公文書が存在することが明らかになりました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。
"蓮舫（立憲民主党）「任命拒否問題がこんなに大事になると思っていました？」
菅総理「説明をさせていただければと思っていました、わかっていただけると思っていました。」"
ナレ「6 人の任命を拒否した理由を今日も明かさなかった菅総理、一方、6 人を除外するまでの経緯を記した公文書があることがわかりました。」
"蓮舫「この 6 人を削った経緯を知る方法が一つあります、8 月 31 日に推薦名簿がでて、9 月 24 日起案されるまでの過程の公文書ありますか。」
加藤勝信（官房長官）「今回の任命にかかる経緯について杉田副長官と内閣府でのやり取りを行った記録について担当内閣府において管理をしていると承知をしております。」"
ナレ「菅総理のこれまでの説明では学術会議の会員の選び方を問題視した菅総理が杉田官房副長官らに懸念を伝え、その後杉田氏が内閣府と協議し 6 人を除外することを総理に報告してきた、ということです。今日新たにわかったことは杉田氏と内閣府の協議が記録に残されていた、ということ。」
"委員長「蓮舫さん。」
蓮舫「提出してください。」
加藤勝信「まさにこれ人事に関する記録でありますから、内容の提出は今回の件に限らずこうした案件については差し控えさせていただいているところであります。」
蓮舫「総理ね、人事に関する機微な情報、この人はこういう理由だ、そこはいいんです別に、ただこういう経過で狭めていった、省議を重ねたという途中経過をお示しください、総理として指示をしますか。」
菅総理「今、官房長官が申し上げたとおりです。」"
ナレ「政府は記録の提出に応じない姿勢です。」
　このトピックについて当てられた時間は秒で時間配分及び比率は以下の通りであった。



今回は国会討論では立憲民主党による質疑のみが取り上げられていた。これについては他の放送日との合わせての判断が必要と考えられる。

・核兵器禁止条約：結論→特に問題なし

ナレーションによって「来年月で開催する核兵器禁止条約の締約国会議を被爆地の広島や長崎で開催する案について、菅総理は条約の締約国ではないなかで不適切、などと否定的な見解を示しました。そのうえで、現実的に核軍縮を推進していくことが我が国にとっては大事、と訴えました。」とのことが伝えられた。
このトピックについて当てられた時間は 28 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・中央道またぐ橋で不良工事が発覚：結論→特に問題なし

ナレーションによって「中央自動車道の補強工事で不良工事が行われていたことがわかりました、現場は国立府中と八王子の間、高速道路の上を横切って走る市道の橋脚で必要な鉄筋が 8 本不足しているということです、工事を請け負ったのは福岡宗像市にある建設会社で過去 10 年に同様の工事を 26 件受注しています、国土交通省は他にも施工不良がないか、調査をはじめました。」とのことが伝えられた。

このトピックについて当てられた時間は 36 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・学術会議をめぐる法解釈：結論→特に問題なし

小川キャスターの「日本学術会議の任命拒否問題で当時の会長が JNN の取材に応じ、総理に推薦どおり任命する義務はないとする内閣府の文書について報告はなく、全く知らなかった、と回答しました。」とのコメントを受けて、VTR とともにナレーションによって「日本学術会議が推薦した会員候補を政府が拒否した問題では内閣

府が一昨年、内閣総理大臣に推薦の通り任命すべき義務があるとまでは言えないという法解釈をまとめた文書を作っていたことがわかっています、加藤官房長官はこの文書について今月 2 日の衆議院予算委員会で『当時、内閣府の学術会議事務局長が文書の内容を日本学術会議の会長に口頭で報告したと聞いている』と述べています。これについて当時会長だった山極寿一前会長が JNN の取材に応じ、文書についての報告はなかった、全く知らない、と回答しました。そのうえで、口頭で報告したというのはあまりにも不確かで確認のしようがないが、私が知っていれば必ず副会長らと対応を相談したと思う、と指摘しました。」とのことが伝えられた。

　このトピックについて当てられた時間は 80 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

　特に問題なし

検証者所感

・学術会議をめぐる内閣府の記録

　今回も国会討論で取り上げられたのは学術会議についてであるが、他には国会ではどういう議論がされているのだろうか。

　国会での議論のうち、特定の議題のみに偏った報道を繰り返すということは、結果として政党、特に野党もメディアに取り上げてもらえるようなテーマに集中することとなり、国会質疑を歪めてしまう恐れがあるのではないだろうか。

・中央道またぐ橋で不良工事が発覚

　不良工事が発覚したとのことがだ、問題の業者が他にも不良工事を行っているということで、こうした事ができた背景というのは非常に気になるところである。

NEWS23 週刊報告　詳細版

テレビ局：TBS	番組名：NEWS23	放送日：2020 年 11 月 6 日

出演者：小川彩佳、村瀬健介、山本恵里伽、石井大裕
新谷学（週刊文春編集局長）

検証テーマ：オープニング、アメリカ大統領選挙、日本学術会議

報道トピック一覧
・オープニング
・アメリカ大統領選挙
・日本学術会議
・新型コロナの感染者
・スポーツ報道
・天気予報

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨
・オープニング：結論→特に問題なし
番組のオープニングで以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。
小川彩佳「今夜のゲストを紹介します、週刊文春の編集局長、新谷学さんに来て頂きました、どうぞよろしくお願い致します。」
新谷学「よろしくおねがいします。」
小川彩佳「新谷さんはいわゆる文春砲の生みの親でいらっしゃいまして、2012 年に編集長に州にされていこう、政治家や官僚の汚職だったりですとか、大企業の不正、芸能人のスキャンダルなど数多くのスクープを飛ばして来られました、本日は私もちょっと落ち浮かないんですけれども、どうぞ最後までよろしくおねがいします。その文春砲の一部をこちらにまとめました。もうおなじみのものばかりですけれども河井夫妻ですとか菅原元経産大臣そして黒川元幹事長、検事長と言ったそれぞれ裁判になったりですとか進退を問われたというものばかりなんですが最近ではこちらですね、中央自動車道にかかる橋の不良工事をスクープし、国の調査が始まるきっかけを作ったのも週刊文春だったとこうしたスクープを連発するにあたって、大切にされている信条のようなものってあるんですか。」
新谷学「そうですね、私のモットーは親しき中にもスキャンダルと言いましてね、いくら仲が良くてもね、書くべきことは書く、と。別に菅さんとパンケーキを食べても、安倍さんとお寿司を食べても、黒川さんと麻雀をやっても構わないと思うんですよ、書くべきことを書けば、ただ相手に取り込まれてしまって、それが書けなくなってしまったらだめだぞ、と、我々の仕事は仲良くなることではなくて、懐に踏み込んで、食い込んで、情報をとって、で、相手に不利な書かれたくないことであっても書くべきときは書くと、その覚悟がいちばん大事なんじゃないかなと。」
小川彩佳「忖度一切なしですか。」
新谷学「一切しないですね、もう。菅政権にも、ジャニーズにも TBS にも一切忖度しません。よくだから、リスクを取って私を出しましたよね。大丈夫なんですか、ちょっと。」

小川彩佳「いやいや、ちょっと、ね、緊張しているんですよ、朝から。」
新谷学「ちょっとリスクとりすぎなんじゃないかな TBS と思っているんですけれども」
小川彩佳「いえいえ、楽しみにしてまいりました。新谷さんには、菅総理に直接相談される間柄と、」
新谷学「相談というか、まぁあったことはもちろん何回かありますから。」
小川彩佳「取材されたりとかされる間柄だということですので学術会議の問題ですとか、菅政権の評価なども後ほどお伺いできればと思っています、よろしくおねがいします。」
新谷学「よろしくおねがいします」"

このトピックについて当てられた時間は 140 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・アメリカ大統領選挙：結論→特に問題なし

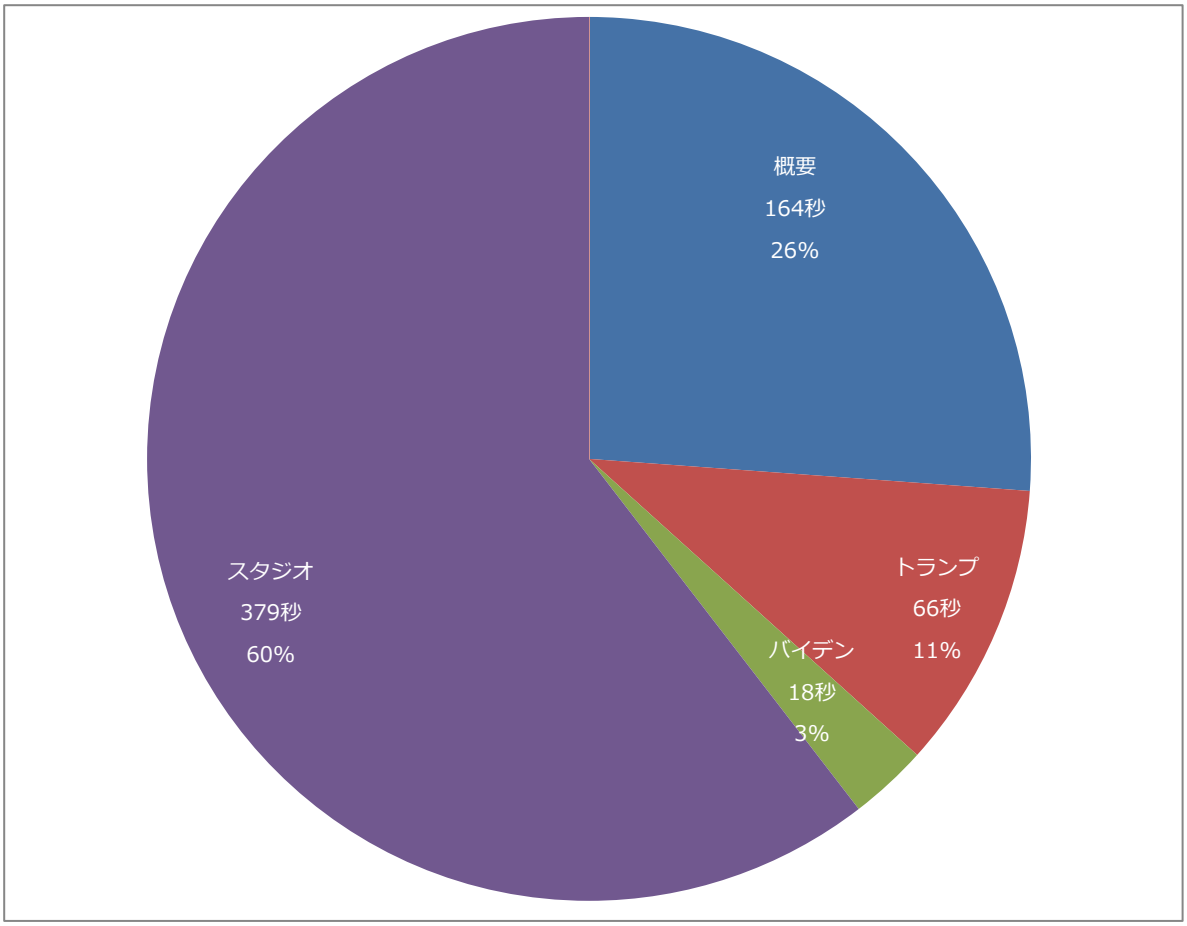
小川彩佳「さて、はじめのニュースをお伝えします、アメリカ大統領選挙です、民主党のバイデン候補が激戦州の一つでも獲得すれば当選確実という状況がずーっと続いているんですけれども、つい先程ですね、大接戦のペンシルベニア州でトランプ大統領を逆転しました。まさに王手という状況です。」
"ナレ「あとがなくなったトランプ大統領、日本時間今朝の緊急会見で。」
トランプ大統領「彼らは不正なやり方で勝とうとしている、許してはならない。これは究極のホラーストーリーだ。究極のホラーだ。」"
"ナレ「開票の中止を求めるトランプ氏にあの人物が。」
グレタ・トゥンベリ（Twitter）「落ち着け、ドナルド、落ち着け」"
（CM）
ナレ「いよいよ大詰めを迎えているアメリカ大統領選、AP 通信によりますとバイデン氏が 264 人、トランプ氏が 214 人の選挙人を獲得していて、バイデン氏が過半数まであと 6 人に迫っています、
"後がない、トランプ氏は。」
トランプ「正当な票を集計すれば私の楽勝だ。違法な票を集計すれば（バイデン陣営は）選挙結果を盗むことができる。これはホラーストーリーだ、究極のホラーだ。」
ナレ「根拠も示さず、一方的に不正な選挙だと訴えました。」
記者「敗北という結果になったら、受け入れますか。」
記者「負け惜しみですか。」
ナレ「トランプ氏は Twitter にも連投
トランプ（Twitter）「インチキをやめろ、票を数えるのをやめろ。」"
"ナレ「トランプ氏の投稿に反応したのは、あの因縁の環境活動家、グレタさんです。」
グレタ（Twitter）「バカけている、ドナルドは怒りを抑えないといけない、落ち着け、ドナルド、落ち着け。」
ナレ「実はこの言い回し、かつてトランプ氏がグレタさんを批判した表現と全く同じ、今回、グレタさんが言い返した格好です。"
"一方勝利に王手をかけながらまだ決めきれないバイデン氏、」
バイデン「民主主義には忍耐が求められるときもある。開票作業が負わた時、ハリス氏と私が勝利できると確信している。」"

ナレ「注目は結果がまだ判明しない 4 つの激戦州です。バイデン票が多いとされる郵便投票を含む、期日前投票の開票が進むにつれてバイデン氏の得票が伸びています。実際、ジョージア州とペンシルベニア州でバイデン氏が逆転、4 つの内、一つでもバイデン氏が取れば、当選確実となります。」
宮本晴代（報告）「こちら、アトランタ市内の開票所前です。こちらには現在も開票作業が続いているんですが、トランプ支持者、そしてバイデン支持者が集まって言い争いとなっています。」
ナレ「選挙の不正を訴えるトランプ氏は集計の中止などを訴えてジョージア州、ミシガン州に対して訴訟を起こしていましたが、退けられました、しかし、さらに訴訟を拡大させる方針で、支持者に訴訟費用を賄うための寄付を求めています。」
　VTR を受けてスタジオと中継の間では以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。
小川彩佳「ここから中継です、大接戦のペンシルベニア州、そしてトランプ陣営、二箇所から最新情報を伝えてもらいます、まずは先程バイデン氏が得票数で逆転しました、ペンシルベニア州です、松本さん、お願いします。」
松本年弘「はい、ペンシルベニア州、フィラデルフィアの開票所前です、こちら朝 9 時半を回ったところです、まずは注目のペンシルベニアの最新情勢ですが、先程新たな開票結果が発表され、ついにバイデン氏がトランプ氏を逆転しました、AP 通信によりますと予測開票率 98%でバイデン氏が 0.08 ポイント、票にしておよそ 5600 票リードしています、まだ集計されていないのはほぼ全て郵便投票の票で、その数は 16 万あまりありますし、ペンシルベニア州では投票日までの消印有効で現地時間の今日 6 日まで到着した票はカウントされます。州が発表したデータではこれまでに開票された郵便投票のうちおよそ 4 分の 3 がバイデン氏に入っていますので、トランプ氏にとってここからの逆転は非常に厳しい状況です。」
岩田夏弥「ホワイトハウス前です、トランプ氏の主張については与党の共和党内でも見方、受け止め方が分かれています。4 年前の予備選挙でトランプ氏と戦ったテッド・クルーズ上院議員は Twitter で『私は怒っているし、アメリカ人が怒るのは当然だ』としてトランプ氏が共和党の選挙人の開票作業への立ち会いが許可されなかったと私的した問題を究明すべきだと訴え、トランプ氏を支持しました。一方、クリス・クリスティー元ニュージャージー州知事は『証拠について何も聞いていない、情報なしに煽ることは許されない』と語り、トランプ氏の対応を批判しました、そして当のトランプ氏は現在もホワイトハウスで過ごしています、CNN テレビは『トランプ氏が周囲に対し、今後バイデン氏の勝利が確実な情勢だと伝えられても認めるつもりはない、と語った』と伝えていますので、当面、ホワイトハウスから退場するつもりはないようです。」
"小川彩佳「今後、バイデン氏に当確が出ても終わりということにはならない、異例の大統領選ですけれども新谷さんは、どちらが大統領になるかという点ではなくて、また別の視点からご覧になっている。」
新谷学「そうですね、アメリカがフェイクニュースに勝てるのかどうか、と。トランプ大統領という人は最大の武器はフェイクニュースだと思うんですね、相手を攻撃するにも、まぁ今朝の会見とか Twitter にもありましたけれども事実に基づかない自分にとって都合のいいニュースをどんどんどんどん拡散させて、相手を攻撃する、」
小川彩佳「そうですね。」
新谷学「一方で、自分が攻撃される、攻撃というか例えばニューヨーク・タイムズがトランプさんの脱税疑惑を報じると『これはフェイクニュースだ』の一言で片付けてしまう、そのまぁフェイクニュースというものがトランプさんによって全米にどんどんどんどん広がり、ポスト・トゥルースのような世界になってくると例えば我々のようなファクトをベースに戦うメディアにとっては非常に言葉が届かない社会になってしまう、で、もう分断

ばかりが、敵愾心というか憎しみばかりがどんどん増長していく世の中になってしまうと思うので、その不都合な真実に向き合う勇気をアメリカが持つのだろうかどうか、というまぁそういうふうな見方をしていました。」"
"小川彩佳「そういった流れっていうのは日本でも同じように見られる兆候があるな、と、いうふうにお感じになることは。」
新谷学「そうですね、例えば安倍政権ですと、安倍総理のやることを全て肯定的に盲目的に全てを受け入れてしまう人とやることなすことすべてを批判的に見る人と、それの二極化しているような印象があって、そういうアメリカに似たような兆候があるのかな、ともうちょっと冷静にファクト、事実をベースに議論をするような建設的な状況になればいいと思うんですけれども。」"
"小川彩佳「それが今ね、菅政権になってどう変わっていくのかと、どう向き合っていくのかというところでもありますけれども、まぁこの大統領選に話を戻しますと、今、王手をかけているのがバイデン氏ですが、バイデン氏が大統領になったら日本としてはどういった向き合いになるんですかね、」
新谷学「そうですね、菅総理はあんまり接点ないかなと思ったら、よく考えたら、キャロライン・ケネディさんとは彼女が大使をやっていたときに、月に一度定期的に食事をしていて。」
小川彩佳「はい。」
新谷学「そのルートは生きてくると思うんですけれども。」
小川彩佳「えぇ。」
新谷学「一方で気になるのは来年の東京オリンピック、菅総理はどんな事があってもやる、これをやらないとこの国はおかしくなってしまう、というふうに考えているので、まぁやるんでしょうけれども、アメリカが来るかどうか、トランプ大統領ならもうコロナを恐れるな、だから来ますけれど、コロナを経過しているバイデンさんになったときにはちょっと未知数ですよね。」
小川彩佳「東京オリンピックの行方、気になるところです。大統領選についてはまた最新情報入りましたら、お伝えします。」"

　他のトピックをはさみ、スタジオと中継の間では以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられていた。
"小川彩佳「ここで再びバイデン氏が得票数で逆転した激戦州ペンシルベニアから中継です。松本さん。」
松本年弘「はい、注目のペンシルベニアの最新情勢をお伝えします、先程バイデン氏が 0.008 ポイント、票にしておよそ 5600 票リードした、とトランプ氏を逆転したとお伝えしましたが、さらに差は広がり、その差は 6700 票あまりとなりました、まだ集計されていないのはほぼ全て郵便投票の票で、その数は 10 万以上あります、州が発表したデータこれまでに開票された郵便投票のうち、およそ 4 分の 3 がバイデン氏に入っていますので、トランプ氏にとってここからの逆転は非常に厳しい状況です。ただ、CUU テレビはトランプ氏が州に対して今後バイデン氏が当選確実となっても認めるつもりはないとかたったと報じています。」"

　このトピックについて当てられた時間は秒で、時間配分及び比率は以下の通りであった。



放送法上は特に問題は見られなかった。

・日本学術会議：結論→他の放送日との合わせての判断が必要

山本キャスターの「続いては日本学術会議をめぐる問題です、今日の国会ですが総理の苦し紛れの答弁に秘書官が助け船を出す場面が目立ちまして、防戦一方の展開が目立ちました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

小池晃（共産党書記局長）「人事のことが問題になっているときに人事について答えられなかったら議論にならないじゃないですか、これじゃだめですよ。」

ナレ「詳細を語らない菅総理の答弁をめぐり、真偽は紛糾しました。菅総理は昨日、以前は推薦名簿の提出前に内閣府事務局と学術会議側が事前に一定の調整を行っていた、という趣旨の答弁をしました、野党側はその事前調整の内容をただしました。」

"小池晃「一定の調整というのは、学術会議が提出しようとしていた名簿を変更させると、いうことの他になにかありますか。」

菅総理「今回は学術会議と何も行っていません。」

小池晃「調整の意味を聞いているんだから。」"

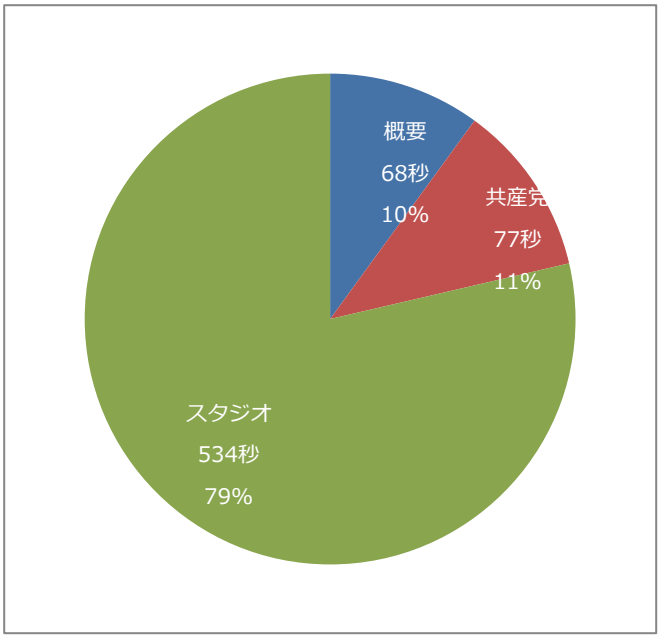
ナレ「噛み合わない議論、」

"菅総理「任命にあたっての考え方をすり合わせて、そのことについて調整と申し上げました。」
小池晃「任命する考え方を交換するだけが調整だとすれば、それをやらなかったから任命しなかったというのは成り立たないんじゃないですか。」
野次「秘書官出てくるな」"
"ナレ「総理が掲げる自助、共助、公助を皮肉る答弁も。」
野次「公助を受けてばっかりじゃないか、答弁。」
野次「自分で答弁できない総理が国民に自助を説くんじゃないよ。」"
小池晃「推薦前の段階で政府が意見を伝えて、それに基づいてすり合わせて、それで名簿が出てくる、介入なんですよ、これは。」
ナレ「今日は 226 の人文社会科学系の学会が共同声明を発表、菅総理に対し任命拒否の理由の説明と 6 人の任命を求めました。」
"小池晃「総理そういう危機感が今広がっていることをどう認識されていますか。」
菅総理「ご意見として伺っています、お伺いしています。」"
　VTR を受けて、以下に朱記したようなやり取りが繰り広げられた。
"小川彩佳「予算委員会、学術会議の任命拒否問題ですが、総理、苦しい答弁だったりしどろもどろだったりそういった答弁が目立ちますけれども、聞いていていかがですか。」
新谷学「そうですね、まあ今日さえ乗り切ればなんとか逃げ切れるという最後の防戦という印象でしたけど、」
小川彩佳「金曜日の今日。」
新谷学「そうですね。まぁ菅さんもともと割と短気な方なんでとにかく怒らないように、野党の挑発に乗らずに、野党の向こう側には国民がいるんだという意識で丁寧に答えようと努力はされていたと思うですけれども、それがどのくらい伝わりますか。」
小川彩佳「いや、丁寧にというふうな意識をされていたということが伝わって、なんでこう伝わらないんでしょうかね。」
新谷学「うーん、要するに任命拒否の理由をストレートに言えないからじゃないからじゃないでしょうかね、やっぱりそこのもやもやしたものが今に至るまでずっと続いていますよね、本当のことが言えないから、まぁなんだろう、多様性の問題とかすり替えているじゃないですか、モヤモヤの原因ですよね。それが」
小川彩佳「うーん、。その誰が 6 人を推薦リストから外したのかということですけれども、菅総理は過ぎた官房副長官から説明を受けたというふうにお話していますよね、簡単にこちらプロフィール、あの説明いたしますと杉田官房副長官というのは警察庁の元警備局長、公安のトップですかね、出身でいらっしゃいまして、官房副長官を 2012 年から現在まで 7 年半ほど務め続けている方ですけれども、この杉田官房副長官とも直接取材をされる仲ですが、杉田さん、どういった方なんですか。」
新谷学「そうですね、あの、極めてストイックな方で、都内にご自宅があるんですけれども、おそらく官房副長官になられて以降はもう、着替えを取りに行くとか、位で家に泊まったりはしていないと思うんですね、もう常に官舎住まわれて官邸にいてこう睨みをきかせるような、まぁ派手なこととかはお嫌いなんで、奥さんを連れて園遊会に着飾っていくとか、そういうことは全然されないで、本当にこうストイックに職務を遂行すると、そういったタイプの方で、霞が関では本当に逆らえる方は誰もいないような本当に大きな力を持っている方だと思い

ます。」
小川彩佳「うーん、絶大な権力を持っているという杉田官房副長官、なぜ、その任命リストから 6 人を除外したんでしょうかね。」"
"新谷学「そうですね、あの、まぁ経歴を見ていただくと分かるんですけれども、ものすごくこう、オールドスタイルのオールドタイプの公安警察官で公安警察というのは事件を未然に防ぐ、危険な思想を持っているんじゃないか、とかそういった人たちをあぶり出して事件を起こす前に取り締まっていくというのがまぁ公安警察官のまぁ仕事なので、まぁ実は今回の 6 人についてもある情報機関がですね、いわゆる身体検査のようなことをやって、例えば共産党との関係とか、あるいは中国との関係を調査していると、そういう報告を上げているという情報もあってですね、それが直接的に今回の任命拒否に繋がるのかどうか、さらに深くまぁ掘り下げて取材をする必要があるのかなとは思いますけどね。」
小川彩佳「え、どういった意味での身体検査に引っかかってしまった方が。」
新谷学「要するに思想信条みたいな、危険思想を持っていないか、まぁ共産党員だったとして、それが危険思想かどうかって全く別の問題ですけど、公安警察的な観点からすればですね、やっぱりそれは要注意、中国シンパですとか要注意人物というふうに見られるのかな、というふうに思いますね。」
小川彩佳「ということは、まぁ安保法だったりですとか共謀罪だったりですとか、そういったことに反対していた反対していた方々ということですけれども、そういった政権が推し進めようとしていることに反旗を翻すような方を除外したという単純な話というわけではなくということですか。」
新谷学「あの、その法案のことも関係あるかもしれませんが、法案だけというよりはもうちょっと深く調べているのではないかな、というふうには思っていて、ただ、これ絶対に口が裂けてもそれが理由ですというふうには言えないでしょうね、それは。ですのでいつになってもこの問題は決着せずに国民がスッキリと納得するような答えを出さないまま、まぁ折に触れて蒸し返されていくのかな、という気はしますね。」"
"小川彩佳「集中的に野党が追及していますけど、こういった事態になるということは菅総理は全く想像できていなかったということになるんでしょうね。」
新谷学「おそらく菅総理自身はそんなに大きな関心をこの問題には持っていないと思うんですよね。」
小川彩佳「学問の自由ということに関して、」
新谷学「そこまで菅総理がこだわる案件ではないのかなというふうに思いますね。」"
"小川彩佳「そしてあの、今日、文春と菅政権が話題と言ったら、こちらをお伺いせずには居られないんですけれども、先月、文春新書が出しました、菅総理の『政治家の覚悟』の改訂新書ですけれども、あの、この部分ですね、この民主党政権の批判の中で語られたものですが、公文書管理のあり方について批判した部分がカットされまして、これ何が起きたんでしょうか、どうしてカットされたんでしょうか。」
新谷学「あの、これ私、本当に正直ベースで全然関わっていないので、新書の担当者から聞いた範囲でしかお話できないんですけれども、単純に削除した部分、二章分を削除しているんですけれども、当時、民主党政権で野党自民党の一議員である菅さんが民主党政権を批判している部分がその二章なんですね、そこの二章をごそっと取ってまぁ新しいインタビュー、総理になる直前のインタビューと差し替えて、編集部の方でこういう形でいいですかというふうに菅さんに聞いて、まぁ了承をえた、と。従って、菅さんの方からそういう依頼があったとか編集部の方が忖度してまずい部分を削ったということでは一切ない、というふうに私は聞いていますけれども。」

小川彩佳「逆にいうと、総理もここはこだわりの部分ではなかった、ということになりますか。」
新谷学「どうですかね、会見で聞かれて確かに誰の発言かわからない、というのはありましたけれど、どうなんでしょう、なんか全然納得されていない。」
小川彩佳「そんなことないです。」
新谷学「何も私隠し立てしていないんですけれども」
小川彩佳「単純にカットした、その厚くなってしまうというところでカットした、と」
新谷学「ただ、まぁ総理の著書ですから色んな見方を色んな角度からされるというのは当然あるのかな、と。その都度やはり版元である文藝春秋はちゃんと説明責任は果たすべきだし、その努力はしているんじゃないかとは思いますけれどね。」
小川彩佳「さぁ、あの菅総理との関係を築きながらも菅政権発足から、次々と週刊文春では毎週のように問題提起をするような記事を展開されていますけれども、ちょっとお時間亡くなっていきましたが、メディアと権力の関係をどう考えていらっしゃるのか、ちょっと伺ってもよろしいですか。」"
"新谷学「そうですね、あの、菅さんとか杉田さん、正直申し上げて、あったことはありますけど、別にそのズブズブの関係でもなんでもないですし、あの、親しき中にスキャンダルというふうに申し上げましたけれども、書くべきことは書いている、ただ菅さんというのは本当にあの仕事のできる方、一刻も早く携帯を値下げしたいとか、不妊治療に保険を適用したいというのは、純粋な思いなんですよね、それは前に進めたほうが国民にメリットがあると思うんですけれども、その彼の改革に邪な思いを持って接近してくる人たちをしっかりとスクープを持って警鐘を鳴らしていくというのが、週刊文春の在り方、今後の向き合い方なのかなというふうに思っていますけれども。」
小川彩佳「今も用意されていますか、スクープは。」
新谷学「かなり深くまで色々潜っているんで、いずれ浮上してくるかなと思ってますけれども、」
小川彩佳「今後の文春の展開にも注目してまいります。」
新谷学「よろしくおねがいします。」
小川彩佳「本日はどうもありがとうございました。また是非お越しください」
新谷学「ありがとうございます。」"

このトピックについて当てられた時間は 679 秒で時間配分及び比率は以下の通りであった。



他の放送日との合わせての判断が必要と考えられるものであった。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・日本学術会議

確かに今回、任命拒否された学者のうちの何名かは「民主主義科学者教会」（通称：民科）の関係者がおり、その民科というのは共産党と非常に関わりの深い、また共産党の下部組織・フロント組織とするような見方のされる組織であるということは調べれば分かる情報である。

仮に杉田副長官が警察出身の見地からそうした判断をしたとしても、その理由は「口が裂けても言えない」というものなのだろうか。

とは言え、この問題を取り上げる政党というのも共産党であったり、共産党と共同歩調をとっている立憲民主党であり、他方で維新の会などはこの問題を取り上げているところが報じられていない、というのもどうもそうした事情が背景にあるからなのではないだろうか、という気もしなくもない。